# 第2章　調査の詳細

# 1．ワークショップ

## （1）インタビューワーク

### 実施概要

新しい図書館は、地域に暮らすさまざまな人々、子どもたち、保護者、学生、社会人などが利用する複合的な学びの場となることが想定されます。こうした多様な利用者層が求める本へのニーズを的確に把握するため、本調査ではブックディレクターによる、全 9 回のインタビューワークを実施しました。

全 9 回の内 3 回は、新設図書館に隣接する國學院大學図書館と連携し、当該大学の学生を対象とし、5 回は公募による区民、1 回は区内でダウン症、自閉症の子どもたちに向けたアート活動をしている団体に協力してもらい、親子を対象に実施しました。

進め方は、ブックディレクターがテーブルに並べた 100 冊程度の本の中から、参加者に気になる本を数冊選んでもらい、その本をもとにブックディレクターが質問を投げかけながら対話を行う方法です。この対話を通じて、参加者の読書習慣や図書館の利用傾向、興味を持つテーマや本を選ぶ際の着眼点などを丁寧に掘り下げました。

なお、インタビューワークは、一人ひとりの声を聴き、対話から本との関わりを深く理解するために、各回 6～8 人程度の少人数での開催とし、参加者が互いの意見や感想を共有し合い、新たな本との出会いや気づきが生まれる場となりました。

| | |
|---|---|
| 実施期間 | 2025 年 6 月～7 月（全 9 回） |
| 開催場所 | 國學院大學渋谷キャンパス図書館／リフレッシュ氷川 |
| 対象者 | 國學院大學学生・渋谷区民等 |
| 参加者数 | 計 68 人 |
| インタビュー内容 | ・自己紹介<br>・私が選ぶ図書館に置いてほしい本 2 冊<br>（図書 100 冊の中から選書　※図書リストは巻末に掲載）<br>・新設図書館に期待すること |

**インタビュアー**

ブックディレクター

**幅允孝（はば・よしたか）**

人と本の距離を縮めるため、公共図書館や病院、学校、ホテル、オフィスなど様々な場所でライブラリーの制作をしている。安藤忠雄氏が設計・建築し、市に寄贈した子どものための図書文化施設「こども本の森　中之島」では、クリエイティブ・ディレクションを担当。最近の仕事として「早稲田大学国際文学館（村上春樹ライブラリー）」での選書・配架、札幌市図書・情報館の立ち上げや、ロンドン・サンパウロ・ロサンゼルスの JAPAN HOUSE など。「鈍考」主宰。NHK テレビ「理想的本箱　君だけのブックガイド」出演。神奈川県教育委員会顧問。2001 年より渋谷区に居住、現在は渋谷区と京都の二拠点で活動。

### インタビュー実施日時・参加人数

| 回 | 日 | 時 | 場所 | 対象 | 人数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第 1 回 | 6 月 28 日 | 10：30〜11：20 | 國學院大學<br>渋谷キャンパス図書館<br>学習室 3 | 國學院大學学生 | 7 人 |
| 第 2 回 | | 13：30〜14：20 | | | 9 人 |
| 第 3 回 | | 15：00〜15：50 | | | 7 人 |
| 第 4 回 | 7 月 5 日 | 10：30〜11：20 | リフレッシュ氷川<br>多目的室 C | 渋谷区民 | 7 人 |
| 第 5 回 | | 13：30〜14：20 | | | 8 人 |
| 第 6 回 | | 15：00〜15：50 | | | 6 人 |
| 第 7 回 | 7 月 6 日 | 10：30〜11：20 | | atelier A<br>（アトリエ・エー） | 10 人 |
| 第 8 回 | | 13：30〜14：20 | | 渋谷区民 | 6 人 |
| 第 9 回 | | 15：00〜15：50 | | | 8 人 |

次ページ以降、全 9 回のインタビューの内容（「こんな本が渋谷区の図書館にあったらいいな、を 2 冊選ぶ」と「図書館に期待すること」）について掲載します。

## 第 1 回　2025 年 6 月 28 日（土）10：30　参加者：國學院大學学生 7 人

### こんな本が渋谷区の図書館にあったらいいな、を 2 冊選ぶ

### A さん

**『モモ』（著：ミヒャエル・エンデ）**
中学生の時に読んで、多くのことを考えさせられた本。

幅　何度も読み重ねられるような本ですよね。

**『あたしとあなた』（著：谷川俊太郎）**
表紙や本文の紙の質感、デザイン、装丁に惹かれた。

幅　日本を代表する装丁家の名久井直子さんが手掛けていて、布張りの表紙の気持ちよさがありますね。

### A さん

**『Savoir＆Faire 土』（編集：エルメス財団）**
装丁が美しくて手に取った。

幅　工芸、土壌、あらゆる角度から土というテーマで書かれている本ですね。シリーズでは木に関する本もあります。

**『生き物としての力を取り戻す 50 の自然体験』（監修：カシオ計算機株式会社）**
登山部に所属しているので関心があった。カシオが監修している点にも独特な魅力を感じた。

幅　登山部ということで、自然に触れる際のサバイブやトラブルについても考えているのですね。

### S さん

**『アンリミテッド: コム デ ギャルソン』（著：清水早苗、NHK 番組制作班）**
大学図書館にはファッション関係の大判本が少ない。図書館でじっくり読みたい。

幅　確かに、例えば電車でこんな大判の本を読んでいる人ってなかなかいないですよね。ファッション関連の本に興味があるという声も大切にしていきたいですね。

**『世界の図書館を巡る』（編集：ゲシュタルテン）**
世界の美しい図書館を紹介した本。自分も所有しているが、この本をきっかけに多くの人に世界への関心を持ってもらえたらと思う。

幅　その本に掲載されている、ダブリンのトリニティカレッジの図書館は、素晴らしいですよね。一度ぜひ行かれてみてください。

### H さん

**『焚き火大全』（著：吉長成恭）**
この一冊で焚き火に関する実用や文学的な知識を幅広く知ることができる。自分は子どものころ焚き火に触れる機会があり、この本から関心を広げてほしい。毎夏地元の友人と焚き火をしている。

幅　焚き火を実際にされたことがあると。ご自身の思い出もありつつ本を選ばれたのですね。

**『ともだち』（著：谷川俊太郎、和田誠）**
和田誠による装丁が魅力。ここから星新一にも関心が広がればよい。

幅　和田誠さんは本当にたくさんの本の装丁を手掛けられていますよね。渋谷区にもお住まいでした。

## H さん

**『休むヒント。』（著：群像編集部）**
大学生活で時間に余裕ができたが、休み方がわからずだらだら過ごしてしまう日も多い。エッセイ形式で気軽に読める点がよい。

幅　受動的ではなく、能動的に休む方法が書かれていて、どのように心と体が健やかにリラックスできるかが分かりますよね。分厚い本ではなく、パラパラとめくれる気軽さも良いですね。

**『まばたき』（著：穂村弘、イラスト：酒井駒子）**
表紙のインパクト、時間の流れを本でしか体験できない方法で表現している点に惹かれた。絵本もよく手に取る。

幅　ページをめくっていくと急に時間が動いていく様子は、絵本じゃないと表現できないような手法ですし、大人になったからこそ内容がわかる絵本でもありますね。

## O さん

**『好きな食べ物がみつからない』（著：古賀及子）**
以前から気になっていた本。文庫なら即決で買うが、この価格帯は購入を迷うので、図書館にあるとありがたい。こういう読みやすそうな本が図書館にあることも大事だと思う。

幅　本の価格が上がっていると、購入に迷うこともありますよね。以前から気になっていた本をすぐに思い出せたのは、本の表紙の影響も大きいのかもしれないですね。今回背表紙だけで本が並んでいたら気づかなかったかもしれないと。

**『翻訳できない世界のことば』（著：エラ・フランシス・サンダース）**
翻訳できない言葉をテーマにしていて面白い。図書館にこういう本があったら手に取ると思う。

幅　言葉を探求しながらも、決して万能ではない言葉の領分も踏まえつつ。でもどうにか感情に置き換えたいという思いが詰まった本ですね。視覚的に訴えるような本だと手に取りやすいというのはありますね。

## M さん

**『アイスの旅』（著：甲斐みのり）**
全国各地の郷土アイスの図鑑が図書館にあると、図書館から日本各地の文化に触れられる楽しみがある。

幅　視覚的にも楽しい本ですね。普段研究で資料を読み込んでいる合間にも読めるような。

**『工芸青花　3 号』（編：菅野康晴、衣奈彩子）**
表紙を見て何の本か全くわからなかった。図書館では背表紙で置かれていても手に取らないが、表紙を見せて置かれていると何の本かわからないので、気になって手に取ってしまうと思う。

幅　表紙というのは、本を選ぶ時のヒントになっている可能性がありますね。本棚でも表紙の面陳と背表紙の棚差し、両方の良さがある。今回の皆さんは本の表紙を並べる方法が選びやすいと感じる方が多いようです。バランスをうまく考えていく必要があると感じました。

## 図書館に期待すること

**H さん**
大学図書館は学術書が豊富だが、渋谷区立図書館は郷土資料だけでなく、渋谷のカルチャーも含め幅広いジャンルで渋谷を体感できる本があるとよい。

**S さん**
スマホをロッカーに預けて忙しさから解放され、研究や読書に没頭できる場所であってほしい。また、世界中のさまざまなことを知るきっかけや「ここに行ってみたい」と思える場所になってほしい。

**A さん**
書店ではなかなか見つからない、例えば一度しか翻訳されていない海外 SF 作品など資料価値の高い本があるとうれしい。

**A さん**
詩集が豊富な図書館にしてほしい。気に入ったものは購入したいので、まずは図書館でじっくり読みたい。

**H さん**
無機質ではなく、有機的で暖色系の自然光が入る落ち着いた空間にしてほしい。

**O さん**
本の配置やジャンル分けがユニークな図書館が理想。NDC※に縛られない独自の分類方法も採用してほしい。興味のある本をきっかけに、他の本へと関心が広がる仕掛けがあるとうれしい。
※「NDC（日本十進分類法）」：図書館では、本を内容ごとに 10 分野（0～9）に分け、番号順に並べています。

**M さん**
ボードゲームが利用できる図書館がよい。図書館で遊ぶことで、偶然本が目に入り、本を手に取る機会になる。また障がい者サービスの充実も欠かせない。より多くの人が来やすい図書館が望ましい。

**幅　様々な方が来られる図書館を想像して、なるべく寛大に、ユニバーサルに使える場所にしていけたらと思っております。予定時間を少し過ぎてしまいましたが、皆さんの貴重なご意見やご提案、色々なヒントをいただきました。ぜひ今後も新しい図書館づくりを見守っていただけたらと思っています。本日はありがとうございました。**

## 第２回　2025 年 6 月 28 日（土）13：30～　参加者：國學院大學学生９人

### こんな本が渋谷区の図書館にあったらいいな、を２冊選ぶ

### H さん

**『火の鳥』（著：手塚治虫）**
複数巻のシリーズは購入しづらいので、図書館にあると手に取りたくなる。

**幅　『火の鳥』は文庫版もありますが、今お持ちの B5 の大判は、迫力がかなり伝わってきますね。**

**『生き物としての力を取り戻す 50 の自然体験』（監修：カシオ計算機株式会社）**
タイトルにまず惹かれた。手順ごとに写真がカラーで載っていて、書いてあることを実際に体験しなくても、眺めるだけで楽しい。子どもから大人まで楽しめる一冊だと感じる。

**幅　一個二個でも実践してみようという気持ちになる本ですね。道端でどんな花が咲いているのだろうとか、気づけるとちょっといいことがあります。**

### T さん

**『戦争は女の顔をしていない（コミック版）』(著：小梅けいと、原作：スヴェトラーナ・アレクシエーヴィチ)**
広尾中学校の生徒さんにどんな本を手に取ってほしいかを基準に選んだ。誰かと話したくなり、授業なら教員に質問もでき、自分で考えるきっかけになる本。

**幅　原作本は分厚いので、まずは漫画版で読んでみてほしいというのはありますね。**

**『好きな食べ物がみつからない』（著：古賀及子）**
表紙が可愛らしくて真っ先に手に取りたくなった。自分が中学生なら真っ先に読むかも。

**幅　エッセイ的な内容や表紙のデザインが手に取りやすいですね。中学生の思春期のもやもやに対しても。**

### Y さん

**『手の倫理』（著：伊藤亜紗）**
哲学書だが、わかりやすい言葉で書かれていて頭に入りやすい。中学生だと読んだ時に難しさを感じると思うが、その葛藤を感じてほしい。

**幅　専門的に研究された方が、論文よりも分かりやすく書いている本ですね。内容にもデフォルメがない。**

**『静寂とは』（著：アーリング・カッゲ）**
表紙とタイトルに惹かれた。図書館という静かな場所で読んでみたいと感じた。日常の騒がしさの中で「静寂」の大切さを考えさせられる。

**幅　著者はノルウェーの冒険家で、単独で南極点や北極点を目指していました。孤独の中で自身のフィジカルをもって静寂について向かっていった本。**

### Y さん

**『ぼく』（著：谷川俊太郎、イラスト：合田里美）**
表紙やタイトル、そして久しぶりに絵本を読みたくなった気持ちで選んだ。

**幅　タイトルが気になりますよね。短いアクセルの時間でも読み切れる本を選んだと。**

**『傷を愛せるか』（著：宮地尚子）**
タイトルが問いかけるようで心に残った。読んでみたいと思った。手触りも優しい。

**幅　心的外傷の研究をされている方のエッセイ。装丁も美しい。本と呼応するような読み方がお好きなのかもしれないですね。**

## I さん

**『喫茶店の水』（著：qp）**
方向性が異なる 2 冊の写真集を選択。エッセイよりの写真集。

**幅　コーヒーが出てくるまでの物語。季節によって水も異なり、喫茶店の有り様が鏡のように現れています。**

**『世界の図書館を巡る』（編集：ゲシュタルテン）**
写真集や図鑑のような写真が多めの本をパラパラめくるのが好きだった。写真集は高価なので図書館に収蔵されているとうれしい。勉強の息抜きになるような。重たい写真集でも、その場で読めるのが図書館の強みだと思う。

**幅　図書館は、好きな写真集を見つけるための第一歩になっているのですね。本をパラパラめくって楽しんでいるというヒントをいただきました。**

## M さん

**『あたしとあなた』（著：谷川俊太郎）**
表紙に文字がなくて気になり、開いてみると紙質が優しく感じた。詩集なので気軽に読めそう。

**幅　綺麗な本ですよね。名久井直子さんが手がけています。**

**『傷を愛せるか』（著：宮地尚子）**
タイトルに惹かれて手に取った。小説のようで日常を切り取る内容が共鳴を呼び、自分で考えるきっかけになりそうだと思った。

**幅　自分の内側を覗き込むような。そういうことが必要になると思いますね。**

## H さん

**『発酵文化人類学』（著：小倉ヒラク）**
この 2 冊を読みたいと思い探す人はなかなかいないと思った。図書館は知らなかった本との出会いの場であってほしいという思いで選んだ。本を読む時の手触りも大切にしている。

**幅　テクスチャーも本を選ぶ要素になりますよね。**

**『翻訳できない世界のことば』（著：エラ・フランシス・サンダース）**
気軽に読めるし、中学生にも読んでもらいたい。

**幅　なるほど。ありがとうございます。**

## S さん

**『雪のうた』（編：左右社編集部）**
短歌は学校卒業後に触れる機会が減る。図書館で収蔵されれば接点が生まれる。

**幅　歌人の名前と雪にまつわる短歌がたくさん掲載されていて、こんなにも雪にまつわる短歌があるのか、と驚かされますね。**

**『JAZZ SONG BOOK』（著：五味太郎）**
ジャズそのものは敷居が高いが、可愛いイラストと歌詞が英語と日本語で書かれている。曲を知らなくても楽しめるはず。

**幅　本から広がっていくというものがありますよね。始まっていくような。**

## N さん

**『せいめいのれきし』（著：バージニア・リー・バートン）**
10 年前に読んで印象深く、久しぶりに本の表紙を見て再読したいと感じた。

**幅　定点観測地点のような、何度も読み返したくなる絵本。こういう本を大切にしていきたいですよね。**

**『風の谷のナウシカ』（著：宮崎駿）**
内容が深く、生き方や様々なことが学べる本。塾の先生が息抜きに読んで、と教えてくれた。

**幅　映画の内容とも違う箇所があるし、それは息抜きにならなかったですね。（笑）**

## 図書館に期待すること

**H さん**
サイン表示がしっかりされ、初めて来た人でも分かりやすく入りやすい空間を希望する。

**T さん**
地域住民も利用しやすく、中学生とも交流しやすい場。

**Y さん**
天井が高く、オープンスペースと個人スペースが併設され、エリア分けが明確。ただし曖昧なゾーンも共存する図書館が理想。

**Y さん**
目的がなくても楽しめる図書館。手に取った本をさっと読める椅子や荷物置き場があるとうれしい。

**I さん**
本を持ち込んで靴を脱いで過ごせるキッズスペースのような場があればうれしい。また中学生による、小さい子どもへの読み聞かせなど行われればと思う。

**M さん**
本棚の近くに椅子があり、パラパラと本を読める場所。

**H さん**
机があり、本を広げてじっくり読める空間。

**S さん**
地元の図書館のように、七夕時期には笹が飾られるなど、イベントが充実して気軽に行ける場所。また、ひとりになりたい時や心がざわついた時の逃げ場としても使える図書館。

**N さん**
かわいいデザインの貸出カードがある図書館があれば行きたいと思う。

## 第 3 回　2025 年 6 月 28 日（土）15：00～　参加者：國學院大學学生 7 人

### こんな本が渋谷区の図書館にあったらいいな、を 2 冊選ぶ

### K さん

**『雪のうた』（編：左右社編集部）**
自分が好きだから。和歌の研究会に入っている。現代短歌は中学生も親しみやすいのでは。

**幅　古今東西の人たちが、雪という同じ対象を見ても表現が違うという面白さがありますね。**

**『Paul Rand: A Designer's Art』（著：ポール・ランド）**
絵画が好きだが画集や図録は家に置ききれないため、図書館をよく利用している。図書館にこそあってほしい本。

**幅　自己所有という観点とはまた異なって、資料的価値のある本が図書館にもあってほしい、読みたいという思いがあるのですね。**

### A さん

**『生きているのはなぜだろう。』（著：池谷裕二、田島光二）**
哲学を高校生の時に興味を持った。こういう本を手にとって、哲学の良さに触れてほしい。絵本だと手に取られやすそう。

**幅　自然科学的な観点と、哲学的な観点の両方から書かれていて、一読しただけではわかりきれないけれど、何度も読むとああ、と腑に落ちてくる。素晴らしい本です。**

**『火の鳥』（著：手塚治虫）**
小学校の図書室に全巻そろっており、全巻購入は高額なので図書館にそろえてほしい。地元の図書館には置いていなかった。手塚治虫の絵が好き。

**幅　私たちがライブラリーを作る時は、漫画も一つの物語ジャンルとして取り扱うことが多いです。**

**物語を提示する手法として、漫画だから、文学小説だから、という垣根がどんどんなくなってきているような気がしますね。**

### A さん

**『父のアルバム』（著：野口里佳）**
生活史に関心があり、本を通じて時代の変遷や思い出について考えるきっかけになるから。英文も載っていて、渋谷区では海外の方も来られるので、この本を見ることでそういったことを海外の方へも伝えられる。

**幅　ファミリーヒストリーであり、生活史でもある。両方の性質を備えている本です。**

**『THE TOKYO TOILET BOOK』**
センスある造りが好きで、この本がある図書館はおもしろい図書館だと思った。トイレというテーマにも考えさせられるものがあるため。

**幅　渋谷区に実際にある公共トイレのプロジェクトの本ですね。ヴィム・ヴェンダース監督の映画でも使われている。主人公の役所広司さんは、作中で幸田文の『木』を読んでいたりもする。そういった本と組み合わせて展示をすることもできますね。**

## O さん

**『叢の視点』（著：小田康平）**

**『Act of Love』（監修：上田恵介、小宮輝之、大渕希郷ほか）**

生き物が好きで図鑑や写真集をよく買うが、地元の図書館にはそれらが少ないので、図鑑や写真集をもっと集めてほしい。

**幅　『叢の視点』は形が崩れているサボテンを工芸的な視点もありつつ捉えている。『Act of Love』は生き物の様々な求愛の形を教えてくれる本。海外の方にも楽しめる本です。**

## N さん

**『クレーの絵本』（著：パウル・クレー、谷川俊太郎）**

過去行ったことのある図書室や図書館には、詩集が奥まったところに少しだけ置かれていることが多かったため、詩に触れる機会が少なかった。挿絵のついた素敵な詩集がたくさん置かれている図書館が良いと思った。

**幅　詩歌は比較的どこから読み始めても楽しむことができる。若い書き手がどんどん生まれていて、今後大切にしたいジャンルだなと今回の話を聞いて思いました。そういう声をいただけてうれしいです。**

**『工芸青花　3号』（編：菅野康晴、衣奈彩子）**

美術館に行くのが好きで、ルネ・ラリックの作品など、工芸に関する写真集が充実しているとうれしい。なかなか大型で高額で自分では手に入れられないので。

**幅　工芸に関するテキストもしっかりあって、写真もあって。本の装丁は布張りで美しい。なかなか家で買えないと。貴重なご意見ありがとうございます。**

## O さん

**『Creature』（著：Andrew Zuckerman）**

写真を紙で見る機会が減っているため、図書館に置いてほしい。図書館という空間でじっくり味わいたい。

**『堀部安嗣作品集 II』（著：堀部安嗣）**

普段は文章を主体とした本を読むことが多いが、図書館にこういう本を置いてほしいと思った。普段だと気にしない視点が面白い。

**幅　これくらいの大きさの本が持つ迫力は、動画やインターネットの画像検索と感じ方が違いますよね。エディトリアルデザインの面白さもある。**

## A さん

**『翻訳できない世界のことば』（著：エラ・フランシス・サンダース）**

やさしい挿絵、魅力的な装丁。渋谷は異文化交流が多い土地なので、この本で世界を知るきっかけにしてほしい。

**『モモ』（著：ミヒャエル・エンデ）**

幼少期に母に読んでもらった思い出の一冊。読み継がれる本は図書館に収蔵してほしい。

**幅　思わず、モモだ！と言ってしまうほど、ずっと好きな本なのですね。スリーブ入りの本。小学生にも読んでほしいと。**

## 図書館に期待すること

**K さん**

地元の図書館では、友人と背表紙を見ながらよく語り合った。棚に並ぶ本を眺め、友達と本について気軽に話せる場があるとよい。

**A さん**
近所の図書館は新しくてきれいだが、利用者が多すぎて読書の雰囲気ではない。自習スペースと読書スペースをきちんと分けてほしい。

**A さん**
地元の図書館は 3 階が児童フロアで賑やか。機能でフロアが分かれていると分かりやすい。椅子の座り心地にもこだわってほしい。

**O さん**
地元の図書館はリニューアルされ、自習室が完全予約制になり、談話室や本を読む空間も整ったことで図書館が好きになった。

**N さん**
地元の図書館では一応自習スペースと読書スペースが分かれているが、実際にはすみ分けができていない。どうせ区分するなら、徹底してほしい。

**A さん**
地域で長く暮らしている人々の話が聞けるような仕組みが欲しい。

**幅　皆さん、おもしろい選書をありがとうございました。中学校の敷地内にある公共図書館ということですが、手に取りやすいことだったり、家の中で読書するのとは違った機能を持たせた場所、例えば重量感のある本を置いたりとか。詩歌という、余韻や余白を持った短い作品たちの扱い方をしっかりしていくべきなのかなと思いました。**

**いただいた意見を大切にしながら、図書館の準備プロジェクトを進めていきたいと思っております。**

**まだ先にはなりますが、ぜひ新しい図書館で今日のことを思い出していただけたら。本当にありがとうございました。**

## 第４回　2025 年 7 月 5 日（土）10：30～　参加者：渋谷区民７人

### こんな本が渋谷区の図書館にあったらいいな、を２冊選ぶ

#### T さん

**『中学生から知りたいパレスチナのこと』（著：岡真理、小山哲、藤原辰史）**
小学生や中学生に聞かれてもわからないことだらけで、これは読みたいなと思った。

**『あたしとあなた』（著：谷川俊太郎）**
詩集の方は、装丁の素材感がいい。図書館はカバーをかけてしまうが、こういうのがあるといい。

**幅　手触りも大事ですよね。カバーは長持ちはするが、装丁の魅力が損なわれてしまうというのはある。何をもってカバーをするしないというジャッジも難しいです。**

#### K さん

**『どんなかんじかなあ』（文/中山千夏、絵/和田誠）**
絵に惹かれた。最近の子どもたちを見ていると、やさしさがかけている。やさしさの心を持ってほしいので、図書館に置いてほしい。また、大人でも、文字数が少ないので、読む方が増えている。

**幅　その本は、他者に対する慮りをテーマにしている本です。絵本というメディアだと、大人でも読めますね。**

**『雪を作る話』（著：中谷宇吉郎）**
教育、子育てというけれど、人間育成だと思う。世間に出たときに、どんな行動ができるかというのを、こういった方々が書かれた本から学べる。

**『それでも日本人は「戦争」を選んだ』（著：加藤陽子）**
平和のことを考えてほしい。こういった本も読んでほしいと思った。

**幅　中谷宇吉郎の本。平凡社で綺麗にまとめているので、こういうものは中学生とかにはいいかもしれないですね。加藤陽子さんの本も、中学生に語り掛けるようなところから出発しているもの。まずは最初の一歩目をしっかりそろえるというのは大事ですね。**

#### K さん

**『あさになったのでまどをあけますよ』（著：荒井良二）**
どんな世代の方でも一息つける。その人が今感じていることからちょっと気持ちを切り替えたいときに。絵も綺麗なので、手に取りやすい本があったらいい。

**『くらしのこよみ』（編集：うつくしいくらしかた研究所）**
自分の誕生日を見た。色々調べて、人に勧めたり、大事な人のお誕生日や記念日に、お手紙に少し添えるのも素敵。生活に潤いが出る。

**幅　絵本は大人が読んでも感じるものがある。その余白と余韻、広がりがある。そういう観点はありますよね。**

#### S さん

**『翻訳できない世界のことば』（著：エラ・フランシス・サンダース）**
渋谷区は多国籍で、図書館もこれからは色々な国の方が利用する。こういう国の言葉があると分かれば、子どもも大人も読んで面白い。国を調べる地図も欲しくなるなど、広がりが出て面白い。

**幅　１冊を起点にしたアクセス性も重要ですね。**

**『平行植物』（著：レオ・レオーニ）**
単に絵本で知られる作家。その絵本を読んだあとに読むと面白い。想像のさらに想像が進化していく。大人でも、少し大きくなった子どもにも読んでほしい。

**幅　レオ・レオーニが作った架空の植物図鑑。設定も細かくされていて、この著者も絵本ばかりでない。著者名からのつながりも良いですね。**

## I さん

**『Sunny』（著：松本大洋）**
漫画というのは日本のステータスの一つで世界的にも流通している。作家の物語性、表現力が素晴らしい。本屋さんと違い図書館は公共性が高くなるので、色々な世代の人にも読んでもらえたらいい。エンターテイメント。

**幅　漫画作品でも内容的にすごく読みごたえがある。家族のありようを考えるうえで、素晴らしい作品です。**

**『熊谷守一画文集 ひとりをたのしむ』（著：熊谷守一）**
美術館に行くのは敷居が高くても、図書館ならタダだから行くっていう人もいる。美術にも触れてほしい。

**『モモ』（著：ミヒャエル・エンデ）**
書物のいいところは、何刷りまで出たかが分かり、そこまで読むと面白い。たくさんの人が読んだことが感じられ、広がりがある。

## G さん

**『ナマケモノのいる森で』（著：ソフィー・ストラディほか）**
綺麗だと思った。児童の書架だと、必ずこういう本は修正テープだらけになる。読み聞かせは遠いところで読むので、膝の上で、２人で「ナマケモノはどこかな」って読めるなと思った。

**幅　どんどん森がなくなるストーリーで、現代的なんですよね。**

**『ねこに未来はない』（著：長田弘）**
見るからに古い本。図書館には大事な本があるが、それが破れて除籍されたら、なかなか足されない。古くて大事な本があると思う。

**幅　本は、版元切れになってしまうタイミングが早く、古書価格が高騰していて。本当は読んでほしいのに、なかなか流通しません。「ねこに未来はない」は、ねこに将来がないわけではなく「未来」という概念がない、今をとことん楽しむという存在なのだという意味で、そのあたりのウィットも込めて素晴らしい作品です。今はまだ計画中ですが、将来的に価値が変わらないであろう本、ヴィンテージブックを探す可能性もありますね。**

## K さん

**『雪を作る話』（著：中谷宇吉郎）**

この本を出版したコンセプトが気に入った。科学と文学、トランスしている人たちのものが書かれている。サイズもバックに入る、待ち時間に読める大きさが良い。

**『せいめいのれきし』（著：バージニア・リー・バートン）**
子どもたちのために。旧図書館には子どもたちのスペースがあったので、それは残してほしい、そこに絵本を置いてほしいと思って選んだ。

**幅　絵本は、大人が読む絵本もある。大人も居られて、子どもも居られる。そういう家具の計画も、グラデーションにするなど、区切られすぎると入って行きにくいこともあると思うので、ヒントになります。**

## 図書館に期待すること

**T さん**
子どもたちのこと。本を媒介にしたら話せる、そんな子どもたちの居場所づくりになると良い。

**K さん**
この年になって、見逃していた、読み逃していた本があると感じる。なるべく、見逃しなく、導く本を入れていただきたい。特定の分野だけでなく、あらゆるジャンル、小さい子どもから大人まで読んでほしい。

**K さん**
子どもが楽しい、ワクワクする場所であってほしい。中高の難しさ、大人になって社会とつながることが苦手なままになる場合もあると感じる。どの世代になっても、自分が成長していく過程に図書館が傍らにある、寄り添ってくれるような、来やすい場所に。

**S さん**
行きやすさ。今日、全く知らない方々と本でこれだけ盛り上がれるのは、やはり本にはすごく力があるなと思う。イベントが充実していて、コミュニケーションの一つとして図書館があってくれたらいい。

**I さん**
できた時が頂点ではなく、そこから成長する、ソフトだったり、中身をちゃんと見つめる人たちの新陳代謝ができるようなシステムがあってほしい、そちらに期待している。市民のハブとして、実用的な社会で役に立つ講座を開くなど、そういうことが図書館はできる。おしゃれな家具よりも内容にお金をかけてほしい。

**G さん**
はじめはそれぞれの図書館で個性があったが、今は、同じ洋服を着て、自由度がない労働環境で。毎日の運営の中で自由度があるといい。

**K さん**
中央図書館にときどき行くが、昼寝の場所にするなど、そういう図書館にはしてほしくない。本を読むスペースなんだというのを刷り込ませられるといい。

**幅　そこに行ったらスイッチが入る環境も必要で、少し背筋を伸ばせる、オンステージになる、ということも必要かもれしれないですね。**

**本日のご意見、色々なヒントにあふれていました。小さな声を集めながらつくっていきたいと思いますので、完成は先になりますが、オープン後ぜひお出かけいただけたらうれしいです。本日はありがとうございました。**

## 第 5 回　2025 年 7 月 5 日（土）13：30～　参加者：渋谷区民 8 人

### こんな本が渋谷区の図書館にあったらいいな、を 2 冊選ぶ

### S さん

**『どもる体』（著：伊藤亜紗）**
健康、科学に興味はあるが、自分では買うまではいかない。これを読んだら新しい視点が広がるかもしれない。

**幅　伊藤さんは、元々美学から研究をスタートし、身体論に行った方で、五感との関係も強いです。**

**『自然派ワイン入門』（著：イザベル・レジュロン）**
ワインが好きでワインの本を買うが、大きくて高い。めくって楽しむものなので図書館にあったら良い。ちょっと読んでみたい。写真が多くて綺麗。

**幅　ビジュアルが多いのも良いですね。**

### W さん

**『ティファニーのテーブルマナー』（著：ウォルター・ホービング）**
始まる前に読んでいた。イラストや装丁で面白そうだと思った。

**幅　ティファニーがカトラリーを作っていたときに作ったマナーブック、面白いイラストレーションブックです。**

**『マンガ！大英博物館マンガ展図録』（著：ニコル・クーリッジ・ルーマニエール）**
背表紙に大好きな鳥獣戯画が載っていた。漫画はあまり好きではないが、鳥獣戯画は好き。

**幅　マンガのベースが日本の平面絵画であることから、鳥獣戯画が掲載されています。**

### I さん

**『ON READING』（写真：アンドレ・ケルテス）**
スタイリッシュな本にひかれた。モノクロ写真が素敵。

**幅　何かを読んでいる人の写真を集めている本です。言語、時代もバラバラですが、人が読み続けていたということを示しています。**

**『動いている庭』（ジル・クレマン）**
素敵な写真が入った表紙。ナチュラリスティックな庭が流行っていて、知り合いもやっているので、一種の教養として。

**幅　フランス人の庭師の本です。自然に触れることにも興味がありますか。**

**I さん**　大変興味がある。

### O さん

**『風の谷のナウシカ』（著：宮﨑駿）**
芸能関係の本が好き。元々漫画連載だという噂は聞いていたが、実物を見たのは初めてで震えている。

**幅　映画は 2 巻の途中までですが、漫画は 7 巻まで続き、映画だと思ってもいなかったことになります。**

**『伊丹十三の台所』（著：伊丹十三）**
存在は知っていたが本屋になくて、ここに来て「あ～！」という感じ。2 年前から料理を始めた。伊丹さんのものを見るとインスピレーション、やる気が湧く。夏も美味しいものを作って頑張ろうと思う。

### J さん

**『ねこに未来はない』（著：長田弘）**
最初に紹介してもらったので、最初に選んだ。おすすめされると手に取りやすい体質なのかもしれない。

**『静寂とは』（著：アーリング・カッゲ）**
（タイトルで）どういう意味なんだろうと興味をそそられた。あらすじが分からないので全く違う話かもしれないが、読書という意味でも大切だと思った。

**幅　冒険家が書いたもの。一人にならざるを得ない時に考える静かさ、そこに身を置いたときに心だけでなく身体がどう反応するかを書いた、エッセイ集です。**

## M さん

**『生き物としての力を取り戻す 50 の自然体験』（監修：カシオ計算機株式会社）**
図書館はリフレッシュに行きたい。自然に関するものに興味が湧いた。こういうものを読んで、休日にやることを考える。農業や自家菜園等で幸せやリラックスを感じるので、そういったものを図書館で毎日の楽しみとして見られたら。なかなかこういう本は自分では買わない。必要なものは料理本や、設計をやっているので建築の本。いつか読みたいものは買わずにいる。

**幅　外の環境と触れ合うような内容を想起させるものを大切にされているのでしょうね。**

**『ともだち』(著：谷川俊太郎、和田誠)**
絵本は、子どものコーナーに置いてあるとわざわざ行って選ばないが、今の私にもすごい響き、うれしい。図書館はすごい良い出会いのある場所だと思える。

**幅　絵本を大人に向けて置いている図書館も多いです。子どもコーナーに集約すると、大人が一人で行きづらいですよね。絵本が大人のコーナーに、大人の本が子どもコーナーに染み出すなど、境界を曖昧にするバランスは、本棚の内容や家具で考えると良いですね。**

## T さん

**『喫茶店の水』（著：qp）**
選書の話も同じだが、誰かの好きなもの、誰かの偏愛は、一般、紋切り型でないのが面白い。

**幅　エッセイを読むと納得感があり、面白いですよね。**

**『数と夕方』（著：管啓次郎）**
仕事が終わって疲れているときに、長いものを開く気持ちになれない。詩集等はぱっと開いて、その一篇だけ読めば良い。SNS、ショート動画にも近く、本を一冊読ませるのは難しい中で、短い本ではっとする言葉に出会える経験、確率を詩集は持っている。図書館では奥、文学好きのコーナーに押し込まれているので、もっと手前にあっても良い。

**幅　短歌、俳句は、若くて面白い歌人が増えており、装丁もすごいです。どこからでも読み始め、読み終われる、短い時間でも集中して没入できるのが良いですね。**

## H さん

自分は背表紙で見るので、同じ状態で見てほしい。

**『数学する身体』（著：森田真生）**
マイブームは認知、身体性なので、（この本が）一体何者か気になった。

**『Savoir＆Faire 土』（編集：エルメス財団）**
タイトルが、「何それ？」と絶対になる。さっきスマートフォンで調べたが、そういうことか、となった。宝探しの側面がある。そのときの心情と合えば借りて帰る。

**幅　森田さんは数学の独立研究者。岡潔氏を師と仰ぎ、数学は体を使った行為と主張しています。小林秀雄賞を最年少で受賞しています。**

## 図書館に期待すること

**J さん**
使い分けをしている関係上、ゆっくり自習したい、本を読みたいときは広くてスペースがとられている中央図書館に行く。目的に合わせて欲しい本を受け取りたいときは本が置いてある館に行くこともある。開館時間は、できれば長いと助かる。

**幅　ポイントで探して、周辺を見ていると思いますが、本棚の形状についてはどうでしょうか。**

**J さん**
円形の図書館は行ったことがないので、憧れ、冒険チック。通路が広いと良いと感じることもある。

**O さん**
早稲田大学村上春樹ライブラリーのように、ビジュアル、表紙が見えると良い。今日も（表紙を）見ただけでわくわくした。

**幅　表紙が見えているのがある程度あると、手に取りやすいですか。**

**O さん**
そう。ここでないと出会わないものは特に。

**幅　表紙がたくさん並んでいる中から知らない本を手に取れると良いという方は。（挙手により 6 人程）逆に背表紙がぎっちり並んでいると良いという方。（挙手により 2 人程）**

**コーナー全体が一望できる場所、奥に入ると集中して探せる場所と、館内での深度分けが必要ですね。**

**I さん**
中学校の教室に本棚を置いて、カテゴリ分けができたら楽しい。また、イベントで先生が来て、図書館の中で科学の実験をするなど。難しいことはあると思うが、わくわくする、そこならではのものがニュアンスとして入ると、住民としても楽しい。

**幅　通常の NDC※だけでなく、再編集して学校に合った形にするということですね。中学校と併設された図書館は今までにないので、キーになりますね。図書館の本が学校へ、生徒が図書館へなど、境界を曖昧にできると良いですね。**
※「NDC（日本十進分類法）」：図書館では、本を内容ごとに 10 分野（0～9）に分け、番号順に並べています。

**W さん**
ジャンル別になっていたり、おはなし会が開催されていたりすると良い。文喫やシェアラウンジのように、一息つけるような空間や声を出せる場所もあった方が良い。

**幅　館内で飲食ができたほうが良いという方は。（挙手により 5 ～ 6 人程）コーヒーくらいのイメージでしょうか。本を読んで終わりではなく、立体的に、読んだものを交換する場所にしていくのも大事ですね。**

**S さん**
企画コーナーで借りる、初めて見ることが多いので、新しく出会うという点ではありがたい。本屋ではポップを見て買うことが多い。なぜそれがおすすめなのかを言ってもらうと、読みたくなる。

**幅　図書館でも、シンプルなポップから、二次元コードを使用したもの等があります。海外では、指向性スピーカーのある場所だけでレコメンドが聞けるところもあります。そういった工夫と、企画コーナーを変える頻度をなるべく高めるのは大事ですね。**

**M さん**
１つ目は、月の始まりを感じられると、「１日は必ず図書館に行ってみよう」となる。テーマとともに時候に合わせた本があると、「今月はそういう習慣を作ろう」と思え、それを楽しみに行きたくなる。

**幅　漫然とあるより、こういう意図で差し出されていると分かりやすくする必要がありますね。**

**M さん**
２つ目は、仕事で日中動き回っていたりすると、ご飯を食べて寝るまでの時間に一息つく。例えば月の初めだけは特別に 22～23 時まで本を読める時間があると、毎月この時間は図書館に行ってみようとなる。
３つ目は、図書館に行って暗いと読む気持ちがなくなる。日光が入るエリア、外に出て風に当たりながら読める場所等、外読みもできる場所があると、気持ちよく１人になって読める。素敵。

**幅　自分を色々な状況に置いて読みたいということですね。**

**T さん**
杉並区立中央図書館が一番好き。公園とつながっているところがウッドデッキになっている。寝そべって読めるベンチがある。図書館員をやっていたが、本屋の方が選ぶ基準があり、好き。図書館の選書は、分類によって担当者が違ったり、ベストセラーを買ったり、自動で入ってくるものもある。つまらない、誰の考えもないような気がする。逆に、あえて誰かの考え方を通していると良い。

**幅　渋谷区の図書館の指針になるのはどんなジャンルになると思いますか。**

**T さん**
建築と立地の話と結びつくと思う。NDC※で並べないでほしい。ジャンルがばらばらのほうが本との出会いがある気がする。ざっくりはまとまっていた方が良いが、分類でなくても良い。
※「NDC（日本十進分類法）」：図書館では、本を内容ごとに 10 分野（0～9）に分け、番号順に並べています。

**H さん**
１つに括ると、自分にとっては宝探し。
１つ目がジャンル分け。代官山蔦屋も良い並べ方で、それぞれのジャンルで、少しずつ時間を費やしている。どこも同じだと、宝探しではない。
２つ目が年代。都立図書館は、背ラベルの一番下に年代が書いてある。「こういう系統で話が進んでいるならここから攻めるか」と宝探しが楽しくなる。時系列が大切で、年代ごとに並んでいると俯瞰できる。

自分は表紙が並んでいると圧が強くて、全部読みたくなるので、背表紙派。背表紙からイマジネーションが出て、宝探しと考えると、「こんなのを拾ってみた」「こんなのだった」と見ることができる。
３つ目、漏れなくいきたい。並べてあるものに新しいものが追加されていけば、漏れがないと思える。

**幅　本を手に取ったときの文脈がいかに分かりやすく示されているかが重要。時代や内容、棚と棚のつながりを分かりやすく示すなど、棚の作り方もアップデートする必要がありますね。**

## 図書館に期待すること

**H さん**
ふれあえる場所。

**T さん**
皆の声を集めて、AI で選書すると面白い。

**M さん**
定期的に行きたくなる、スイッチを押してくれる場所。今月はこんな風に過ごそうというのも一緒に持ち帰れると良い。

**S さん**
休みの日に行って、何時間かうろうろして、滞在したい。

**W さん**
リラックスできる場所。

**I さん**
知らない本に出会いたい。

**O さん**
青山ブックセンターの入り口のディスプレイのように、出会える場所。

**J さん**
新しい発見がある場所、自分を解放できる場所。

**幅　率直な意見を聞かせていただき、ありがとうございました。こうした意見一つひとつを大事にしてすくい上げながら、進めていきたいと思います。開館はもう少し先になると思いますが、注目し続けてもらえればと思いますし、開館した暁にはお出かけいただけたらと思います。本日はありがとうございました。**

## 第 6 回　2025 年 7 月 5 日（土）15：00～　参加者：渋谷区民 6 人

### こんな本が渋谷区の図書館にあったらいいな、を 2 冊選ぶ

### U さん

ほかの本も魅力的だが、定番も含まれている。なかなか他の図書館では読めなさそうというのを選んだ。

**『くらしのこよみ』（編集：うつくしいくらしかた研究所）**
リズムをつけて暮らしている日本人のいいところ、色々な知恵を、皆さんが発見してくれたら楽しいだろうなと感じた。

**『伊丹十三の台所』（著：伊丹十三）**
伊丹十三さんが好き。これで面白いと思った人が、他の作品も読みたいと思ってくれたら。とっつきやすそうな本だと思った。

**幅　どちらも食や生活がテーマになっていますね。**

### N さん

**『Sunny』（著：松本大洋）**
漫画は素晴らしい作品がたくさんあるが、普通の本よりかさばる。図書館で読みたいけど読みたい本が置いてない。検索すると漫画もあるが、「ひとりでしにたい」とか大人向けコミックは置いていないなと。

**『クレーの絵本』（絵：パウル・クレー、著：谷川俊太郎）**
没入して読む作品に出会えていない。絵本を読むことが多くなってきた。大人の絵本と言ってもいいかなと。アートだと思うので、こういうものに出会いたい。こういう手の本は図書館に置いていないし、探し出すのが難しいジャンル。

**幅　大人で絵本を読む人は世界中で増えていますが、コーナーの作り方も考えないといけないですね。子どもの小さな椅子がある専用コーナーではなく、境界をあいまいにして、大人も自然にそういった本にアクセスできるよう延長させていくことも大事だなと思います。**

### A さん

**『翻訳できない世界のことば』（著：エラ・フランシス・サンダース）**
自分で持っていて、お気に入りで何年かに一回読んでいる。好きな言葉に印をつけている。３回くらい読み重ねている。その時によって、いいなと思う言葉が違って面白い。

**『雪のうた』（編：左右社編集部）**
他のシリーズを買おうか迷って買わなかった。好きな言葉を探せる本があると、普段の生活も楽しくなるかな。名言集も良いけど、テーマがあると、面白いと思って。

**幅　『雪のうた』は、近代から現代の色々な作家が入っていて面白い、装丁も良いですよね。**

**また、読み重ねについて、図書館が定点観測値として同じ本を手に取り続けられる場所として、商業的に売れる売れないとは別にしっかり残す、今だけでなく先まできちんと読めるというのは大事にしたいですね。**

### Y さん

**『Shoji Ueda』（写真：植田正治）**
この方は知らなかった。写真集が図書館に欲しいと思う。写真集は少し高いが、図書館に行って知らない写真家のものを見るだけで別の世界を知れる。快楽や気持ちよさ、写真でしか得られない。写真集の中ではこれかなと思って。

**『ティファニーのテーブルマナー』（著：ウォルター・ホービング）**
イラストがいい雰囲気。マナー、品よく食べるとか、日本でも失われつつあるものだと思う。四季の話（くらしのこよみ）とか、積み重なってきたもの、過去の価値観の一つを提示していると思う。図書館にあってほしい。

**幅　植田正治さんは鳥取に美術館のある作家さんで、海外の評価も高まっている。渋谷区では海外の方も多く住んでいらっしゃると思うので、言葉を越えたコミュニケーションとして写真の可能性もあるのかなと感じます。**

## Y さん

**『新版 呼吸の本』（著：加藤俊朗、谷川俊太郎）**
自分で買った積読の中の一冊。家の中にあるなと思い出した。ひねりのきいた質問あるだろうなとか、なかなか面白いと思うのだが読めていない。

**『SONY DESIGN MAKING MODERN』（著：ディヤン・スジック）**
中身というより、アートブック的なものは自分で買うのは敷居が高いので、図書館でパラパラ読みたい。洋書は高いので、そういう意味でも置いてもらえたら。

**幅　『呼吸の本』は、吸って吐くから吐いて吸うにかえるだけで呼吸が変わるという、最初の 1 ページだけで目からうろこでした。**

**アートブックをお選びいただいた理由から、デザインや写真集、アートなど、色々なジャンルにビジュアルブックが入っているといいかもしれないですね。**

## S さん

**『台所探検家、地球の食卓を歩く』（著：岡根谷実里）**
食べ物がすごく好きで、その国に行った気分になる。今月はこの国をテーマにしたコーナーとか、パンについてとか、棚から世界を知ることができる。他の人が読んだ本は気になる。返ってきた本、誰かが読んだ本を見られる仕組みってないかなと。

**『戦争は女の顔をしていない（コミック版）』(著：小梅けいと、原作：スヴェトラーナ・アレクシエーヴィチ)**
漫画の力は絶大で、私たちより次の世代は身近になっている。それを置けば若い人がやってくるかなと。最近の子は、汚い本を取らないらしい。古い作品でも綺麗な装丁で置いてもらったり、漫画版を置いてもらえたりすると、手に取ってもらえる、本が好きになってもらえるかなと。

**幅　個人情報の課題もあるが、現在のテクノロジーを使って読んだ本を開示していい場合はマッチング的なこともできるかもしれませんね。**

**ちなみに、若い世代で高校生に参加いただいていますが、漫画はどうですか。**

**A さん**　『戦争は女の顔をしていない』は原作を読んだ。先ほど少し漫画を手に取ってみたが、本の方が良かったと思った。何かを原作にした漫画を読むことはないが、読みたいと思った漫画からさらにこれ読んでみようかなとは思う。多くの人は漫画が好きだから、文豪の作品も漫画になったら読みやすいかも。

**幅　漫画と原典では感触が違ったりしますが、オリジナルと行き来があるといいですよね。**

## 図書館に期待すること

**S さん**
自由であること。借りても借りなくてもいいし。子育てする中で公共施設をよく使うようになったがスタッフの方の雰囲気ですごく変わる。声かけてくれるとか、自由だけど見捨てない感じが欲しい。
外国人の方が本を探していても、声かけないルールになっているんだろうなと。人との距離がもう少し近くてもいい。

**U さん**
スウェーデンの図書館のような自由な感じが良い。手に取りやすく、面出しが多い。家具も、わいわい見たい席、ソファ席、窓辺でじっくり読みたいこもった席など、シチュエーションづくりが上手。娘が広尾中学校に行くので、本日のような本を入れてほしいと思う。娘は本をあまり読まないので、見て楽しく、文字が少ない本も置いてほしい。

**Y さん**
新しい図書館をつくるために、こういう機会を作っているということは差別化をしようとしているのかなと感じた。そうであれば、コンセプトを決めて打ち出してもらい、こういう存在であると区民に分かりやすく伝えてほしい。共感するかは分からないが、それを知った上で行くことができる。

**N さん**
Web サイトのマイページで、自分が借りた本のデータ一覧を自動で出せるようにしてほしい。蔵書は、リクエストをすれば区全体から取り寄せできるので、読みたい本がどこかにあれば良い。

**Y さん**
働く人も、来る人も、本に対して思いのある人がいる。本たちも心地よくいられるような環境。公共図書館でなくてはできないものにしてほしい。

**A さん**
本の並べ方を、蔦屋書店みたいにしてほしい。文庫、ハードカバーと分かれていると、小説を読む方からすると、両方見に行かなくてはいけない。カテゴリがテーマにすると、色々な本に出会える。
貸出システムが完全にセルフ化されていると立ち寄りやすい。予約本コーナーも、見ていて面白い。

**幅　図書館の中身はこれからで、何等かのコンセプトはつくられます。見える形に表現されなくても、一人一人の声を集めていけば必ずどこかに積層されていきます。また、コミュニケーションを取りたい人と、浸りたい人、両方の機能をうまく一つの館にどうやって入れていくか、難しい部分ですがそういった話なのかなと思いました。**

**今いただいたご意見を大事にしながら進めていきたいと思います。今後も見守っていただき、オープンの際はぜひお出かけください。本日はお忙しい中ありがとうございました。**

## 第７回　2025 年 7 月 6 日（日）10：30～　参加者：区内でアート活動を行う障がい児と保護者１０人

### こんな本が渋谷区の図書館にあったらいいな、を２冊選ぶ

#### S さん

**『デジタルで読む脳 × 紙の本で読む脳』（著：メアリアン・ウルフ）**
先ほど教えてもらった本。幅さんのお話を聞いたのと、タイトルにとても興味を惹かれた。

**『発酵文化人類学』（著：小倉ヒラク）**
発酵が好きで、家でも発酵食品を作っている。多くの人に読んでほしいと思い、手に取った。好きな小説や人気作家の本は手に取りやすいが、こういったジャンルの本は、自分から探しに行かないとなかなか出会えない。

幅　表紙で並んでいる方が良いですか？

S さん　そうですね。本のデザインも面白く、面で陳列されたほうが魅力が伝わりやすいと思う。

#### T さん

**『エル・スール』（著：アデライダ・ガルシア＝モラレス）**
まだ読んだことはないが、できるだけ自分を遠くへ連れて行ってくれる海外の作品や本が好き。アンダルシアには行ったことがないけれど、タイトルと自分の中にあるイメージから、食べ物や暮らしを想像するだけでワクワクして、現実から少し逃避できる。一般的な図書館には定番の海外小説しか置かれていないことが多く、多様で奥行きのある海外文学がきちんとそろっていてほしい。

幅　図書館だと国内の文学が充実しているところは多いですけどね。そうではなく、海外の文学をどれだけ充実させられるかは、肝になるかと思いました。

**『TOKYO STYLE』（著：都築響一）**
写真集は価格も高く、重たくて持ち帰るのが大変で、好きだけど何度も見返すことが少ない。ネット通販では中身がわからない。図書館なら一度見て気に入ったものは自転車に乗せて持ち帰れる。

幅　この本は 90 年代の若者の部屋を写した写真集です。現在は文庫版しか流通していなかったのですが、海外の出版社がこの本はおもしろいとこの大判サイズで復刊させました。こういった古くても素晴らしい本はたくさんあるので、新しい図書館ではこういった本をどうアーカイブしていくかも考える必要がありますね。

#### U さん

**『ともだち』（著：谷川俊太郎、和田誠）**
家にある本。

**『生きているのはなぜだろう。』（著：池谷裕二、田島光二）**
少し怖い絵もあるが、その“ほどよい怖さ”が子どもにとってよい刺激になる。直感的に選んだ本。

#### K さん

**『平行植物』（著：レオ・レオーニ）**
いま草木に関心がある。レオ・レオーニの絵本は好きで、ねずみの絵などのイメージを持っていたので、こうした作品は意外でおもしろかった。本に出てくる植物を見て、「もっと知りたい」と感じた。

幅　なるほど。奥行きを感じたんですね。

**『中学生から知りたいパレスチナのこと』（著：岡真理、小山哲、藤原辰史）**
平和教育について考えるなかで、戦争の悲惨さだけでなく、文化の違いを平易に伝える本も必要だと思った。中高生にとって良い教材になりそう。

幅　グローバルヒストリーの視点からパレスチナが置かれている状況を書いている本で、すごくフェアな視点からパレスチナの見方を促すことのできる本じゃないかなと思います。

#### A さん

**『戦争は女の顔をしていない（コミック版）』（著：小梅けいと、原作：スヴェトラーナ・アレクシエーヴィチ）**
アレクシエーヴィチの作品はもともと好き。マンガという形なら、さまざまな人に読んでもらえると思った。図書館では手塚治虫など基本的なものばかりで、もう一段踏み込んだ作品もあるとよい。

幅　漫画だからといって漫画コーナーにまとめるのではなく、様々なジャンル・テーマの中の 1 冊として、他の本と並べてあげるのが良いですね。

**『スタジオ・オラファー・エリアソン　キッチン』（著：Studio Olafur Eliasson）**
アートと料理が重なるような、ジャンルにとらわれない本もあると良いと思って選んだ。図書館ではジャンル分けが明確すぎて、こういった本を見つけるのが難しい。テーマがグラデーションのように緩やかにつながっている配架があるとおもしろい。他言語の本についても、図書館では過去に寄贈されたままのようなものが多い。

**幅　ジャンルとジャンルが明確に分けられているのではなく、グラデーションとして一つひとつが繋がっているような配架が良いですよね。例えばアートと食が繋がっている、アートと自然科学が繋がっているような配架はおもしろいですね。**

**A さん**　『ベビー・シッターズ・クラブ』（著：アン・M・マーティン）のように、最近 Netflix で映像化された海外作品が他言語で読めたらうれしい。絵本なども、異なる言語バージョンが一緒に並んでいてもいいと思う。

## N さん

**『生き物としての力を取り戻す 50 の自然体験』（監修：カシオ計算機株式会社）**
最初に見たときは、つまらなそうに感じた。でも中を開いてみると、自分で行動を起こせる内容が書かれていて良かった。図書館の本は文章を読むだけのものが多いが、こういった「体験」につながるものがあると良いと思った。

**幅　なるほど。読んだ次に自分でアクションを起こせるような本も大切ですよね。**

**『Creature』（著：Andrew Zuckerman）**
文章は読むのに時間がかかるが、写真集はパラパラと気軽に読める。ズームされた動物の目など、他の本とは違う視点の写真があり、とても楽しかった。

**幅　パラパラと読める写真集はおもしろいですよね。**

## M さん

**『火の鳥』（著：手塚治虫）**
昭和のマンガが好き。絵がきれいで、今のものとは違った印象がある。

**幅　過去と未来が段々と近づいてくるのがおもしろいですよね。『火の鳥』はメッセージも強く、奥行きのある漫画作品ですよね。**

**『ぼく』（著：谷川 俊太郎、イラスト：合田里美）**
絵がきれいでおもしろかった。表紙を見て選んだ。本は表紙で選ぶことが多い。

**幅　全部が背表紙で並んでいるより、表紙で並んでいる本もある方が、選びやすいですね。**

## C さん

**『モモ』（著：ミヒャエル・エンデ）**
時間泥棒が怖いけれど、ドキドキする本が好きなので。

**『数学する身体』（著：森田真生）**
文字が多いので読むのは大変そうだが、数学が好きなので手に取った。

**幅　子どもに「この本は大人が読む本だから違うだろう」とかそういうのではないのかも知れないなと、この本を選んでいただいてすごく感じました。**

## F さん

**『戦争とデザイン』（著：松田行正）**
仕事でデザインをする機会が多く、戦争の時代に選ばれたデザインについて興味がある。

**幅　その本は小口も印刷されていて、装丁もおもしろいデザインがされている本ですよね。**

**『センス・オブ・ワンダー』（著：レイチェル・カーソン）**
高校時代は理系で、『沈黙の春』(著：レイチェル・カーソン)を読んだことがある。この本はその続編のように感じて手に取った。

## E さん

**『世界の図書館を巡る』（編集：ゲシュタルテン）**
本がたくさん並んでいて、ワクワクする。図書館が好き。

**幅　読むだけでなく、写真でパラパラと読み進められる本は良いですよね。**

**『よあけ』（著：ユリー・シュルヴィッツ）**
孫とおじいさんが気になって手に取った。いつも 20 冊くらい借りている。ぱっと手に取って、表紙を見て決めることが多い。

## 図書館に期待すること

**S さん**
一日で一番好きな時間は、カフェで読書に没頭しているとき。図書館でもそれができたらうれしい。カフェのような雰囲気で、自由に図書館の本を読める空間があればいいなと思っている。食べることもできるなら、子どもとおやつを食べながら読書ができる。「渋谷の森の図書室」は飲食が自由で、本にまつわるお菓子などもある。子どもと一緒に楽しめる、そんなスペースがあればうれしい。

**T さん**
今通っている図書館では、大人と子どものコーナーが分かれている。階が違うところもあり、子どもを残して 1 人で落ち着いて本を見ることができない。できれば大人と子どものコーナーを一緒にして、子どもを自由に過ごさせられる空間にしてほしい。
また、現在は仕事や自習など、読書以外での利用者が多く、席が埋まっていることもある。それは仕方がないとは思うが、本を選ぶときにおしゃべりしながら選ぶこともあるため、静かなエリアと騒いでも良いエリアを明確にしてほしい。読書以外の目的の人には、別の場所や専用のスペースを用意してほしい。

**K さん**
本がいろいろと動いているような雰囲気のある図書館が良い。自分の小さい頃を思い出すと、好きなジャンルの本ばかり読んでいた。公共図書館というと分類が決まっていて、あまり読まれていない分野の本も、表紙を見れば興味が湧くのではないかと思う。検索では関心のあるものしか出てこないが、流動性があると、自分が求めていない本との出会いが生まれる。

**A さん**
子どもと一緒に一日中ゆっくり過ごせる図書館になってほしい。ごはんを食べに出てから戻ってこられるような空間があるといい。目が届く、あるいは目を離していても安心できるような場が望ましい。
また、本に詳しい人がきちんと関わっている図書館にしてほしい。自分が手に取りたい本に出会える確率が変わってくる。本に熱意をもった方がいる図書館は信頼できる。

**N さん**
楽しいと感じた図書館が 2 つある。一つは海外のもの、もう一つは「石川県立図書館」。子どものエリアは賑やかにできて、その外のエリアは静かで、きちんと分かれており、どちらにいるかを自分で選べるのが良かった。海外の図書館は、デンマーク、オーフスの「Dokk1」。本だけでなく、子どもの遊び場が整備されており、たとえばレゴの隣に本があるといった配置がされていた。

**M さん**
木でできていて、植物のある空間がいい。安心できて、本が読みやすい。

**C さん**
エリア分けがされていて、自分の気分に応じて、賑やかさと静けさを選べる図書館が良い。

**F さん**
普段は児童コーナーに長くいる。大人でも楽しく読めて、子どもと一緒に楽しめる本があるといい。ゆっくり読むというよりも、短時間で読める本が好ましい。

**E さん**
本がたくさんある空間。

**幅　なるほど。皆さん本日はありがとうございました。今日いただいた意見を大切にしながら、図書館のコンセプトや分類法、配架計画などを考えていきます。それらの礎となるような貴重な意見を、本日はいただけたと思います。 開館へ向けて作っていきますので、ぜひ末永く、この計画を見守っていただければ思いますし、ぜひオープンした暁にはお出かけいただけたらなと思います。本日はどうもありがとうございました。**

## 第 8 回　2025 年 7 月 6 日（日）13：30～　参加者：渋谷区民 6 人

### こんな本が渋谷区の図書館にあったらいいな、を 2 冊選ぶ

### E さん

**『二十億光年の孤独』（著：谷川俊太郎）**

**『新訳　星の王子さま』（著：サン=テグジュペリ）**
どちらも有名な本。『星の王子さま』は、幼い頃に母に勧められた本で、箱根の博物館にも行ったほど印象に残っている。こうした昔からの名作は、これからも読み継がれてほしいし、図書館に常に置いてあってほしい。

幅　そうですね。こういった本が図書館に常にあると、読み継ぐことができるし、読み重ねることもできますよね。本は二度と同じように読めないと言いますしね。またその『二十億光年の孤独』は今回ハードカバーを持ってきましたが、ハードカバーだと長持ちという観点からも良いですね。

### S さん

**『マンガ！大英博物館マンガ展図録』（著：ニコル・クーリッジ・ルーマニエール）**
渋谷の図書館はマンガが少ないので、もっと種類を増やしてほしい。

幅　そういった意見はありがたいです。

**『世界の図書館を巡る』（編集：ゲシュタルテン）**
写真がとてもきれいで、見ているといろいろな国に行ったような気持ちになれる。

幅　パラパラめくれて、視覚的に楽しめる本は良いですね。

### W さん

**『自分の感受性くらい』（著：茨木のり子）**
別の女性作家が紹介していて気になっていた。詩の一節が印象に残り、ちゃんと読んでみたいと思った。小説は没入感が得られないときに読後感がもどかしいが、詩集があると安心する。

幅　茨木のり子さんは「自分の感受性くらい、自分で守れ、ばかものよ。」と強く凛と生きる女性の背中を押すような詩が多いのですが、死後刊行された『歳月』では、先立った夫のことをひたすら恋しく思うラブレターのような甘い詩が特徴的で、同じ作者の中でも強さと弱さが揺れ動く心の機微という観点からも茨木のり子さんの作品は楽しめます。

**『自分のために料理を作る』（著：山口祐加、星野概念）**
料理本が好きでよく読む。ケアという言葉が表紙に書かれていたり、対話形式で構成されていたりする意外性に惹かれた。

**『PIG 05049』（著：Christien Meindertsma）**

**『Kanon』（著：山上新平）**
アートブックは自分ではなかなか出会えない。図書館にあれば手に取りやすい。

幅　例えばその 2 冊は装丁のきれいな本ですが、表紙で並んでいると手に取りたくなる、というのはあるかもしれないですね。

### K さん

**『ねこに未来はない』（著：長田弘）**
始まる前に教えていただいた本。児童書店で働いていたときに、素晴らしいと思っていた本が絶版になった。図書館の良いところは絶版の本でも所蔵されているところ。新しい図書館でもそうあってほしい。

幅　ずっと読み続けられる、というのが大事ですよね。

**『味がある。』（著：マメイケダ）**
マメイケダさんの作品が好きで原画展にも行った。図書館ではあまり見かけないので、収蔵してほしい。眺めて癒される本。

**幅　ここまで皆さんに選んでいただいた本を見ると、食べることや生活に根ざしている本というのが手に取られやすい、というのはあるかもしれませんね。**

## O さん

**『Act of Love』（監修：上田恵介、小宮輝之、大渕希郷ほか）**

**『Creature』（著：Andrew Zuckerman）**
図書館では、子どもと一緒に大きな本を借りることが多い。家では置けないサイズなので、図書館で気軽に読めるのがありがたい。絵はモニターではなく紙で見たい。

**幅　先程の回でも『Creature』を選んだお子さんがいたのですが、その本だと大人も子どもも関係なく楽しめる、一緒に見るなど共有しやすい本ですよね。**

## A さん

**『スタジオ・オラファー・エリアソン　キッチン』（著：Studio Olafur Eliasson）**
写真が美しく、作る過程が紹介されていておもしろい。自分では買わないが、図書館でなら出会いたい本。

**幅　食とアートという、食べるということから自分の五感が研ぎ澄まされるというか、中身が磨かれる、そういうところにも繋がる面白い本ですね。**

**『せいめいのれきし』（著：バージニア・リー・バートン）**
何度も読むうちに新たな発見がある本。図書館にあると、そのたびに新しい気づきがあり、より深く知るきっかけになる。石井桃子さんの訳文も読みやすい。

**幅　生命の、生き物の歴史を劇として、そしてビジュアルも綺麗にして、要は子どもに対してデフォルメせずに描くというのは、日本だと加古里子さんがいますよね。訳者で本を選ぶことはありますか？**

**A さん**　訳者で本を選ぶことはないが、読んだあとに安心感を覚えることはある。

## 図書館に期待すること

**E さん**
子どもが小さい頃、一緒に図書館へ行くと、自分の子どもの声や足音が気になってしまった。だから、子どもがのびのび過ごせる場所が欲しい。賑やかなエリアと静かなエリアがうまく共存できると良い。

**S さん**
図書館は 1 人で行くことが多いが、友達と一緒に行ける場所もあればうれしい。遊んだり、集まって話したりできて、本をおすすめし合える場が欲しい。

**幅　どんな本を教え合いたいですか。**

**S さん**
それぞれの好きな、詳しい本について聞いてみたい。

**W さん**
絵本が大人のコーナーにも広がっている図書館が良い。1 年半ほど前に娘と早稲田の村上春樹ライブラリーに行き、ギャラリーラウンジに村上春樹の作品が並んでいるのを見た。司書の方に村上春樹が翻訳した絵本『ポテト・スープが大好きな猫』（著：T. ファリッシュほか）を紹介してもらい、初めて村上春樹が絵本の翻訳をしていることを知った。新しい図書館が、どの世代でもそうした出会いが生まれるような場所にしてほしい。

**K さん**
娘たちといろんな図書館に行く中で、「こども本の森 中之島」や「ゆいの森あらかわ」など、居場所として魅力的な図書館があると感じた。渋谷区の図書館とは異なる印象。子どもたちが興奮する見せ方や、階段を椅子代わりにする空間に魅力を感じた。
親としては子どもに本を読んでほしいが、子どもは親のおすすめを必ずしも読まない。図書館で司書のおすすめがあれば

うれしいし、司書とのコミュニケーションの機会が欲しい。

**O さん**
パソコンの利用が認められる席があったらうれしい。テレワークや自習なども認められてほしい。機能分けが必要かもしれない。

**A さん**
できれば 365 日開館してほしい。次に、ベンチなど屋内に軽食をとれる場所があればうれしい。そして、本のジャンル分け、すみ分けをきちんとやってほしい。ジャンル分けによって見落とされてしまう可能性がある本については、何かしらのフォローが欲しい。
現状では、バリアフリーの観点から、子ども連れでも気兼ねなく使えるトイレが少ないと感じる。レファレンスの技能が人によってまばらであることも気になっている。

**幅　ありがとうございます。今日はここまでとさせていただきたいと思います。冒頭申し上げたように、皆さんからいただいた意見、お一人お一人の声からここの場所ができていくべきだと考えています。それを大事にしながら、プロジェクトを進めていきたいと思います。開館は先になってしまうのですが、ぜひこのプロジェクトの推移を見守っていただきたいと思っています。加えてオープンした暁には、ぜひお出かけいただいて、私がインタビューした方のご意見が反映されているかどうか、ぜひ目撃していただけたら嬉しいなと思います。本当に今日は貴重なお時間いただきましてどうもありがとうございました。**

## 第 9 回　2025 年 7 月 6 日（日）15：00～　参加者：渋谷区民 8 人

### こんな本が渋谷区の図書館にあったらいいな、を 2 冊選ぶ

### M さん

**『中学生から知りたいパレスチナのこと』（著：岡真理、小山哲、藤原辰史）**
複雑なパレスチナ問題について知りたい。日本以外の国についても学べるため。

幅　学術的な部分もありながら、読みやすい一冊ですよね。

**『発酵文化人類学』（著：小倉ヒラク）**
発酵は日本独自ではなく世界中にある文化で、「世界を知る」という意味で選んだ。

幅　そういう視点はとても大事だと思います。

### K さん

**『TOKYO STYLE』（著：都築響一）**
懐かしい写真が収められている。自分は写真が趣味で、子どもが写真を専攻している。しかし、写真集は値段も高く、場所も取るので個人が所有するのは難しい。そのため、図書館に収蔵されているとうれしい。

**『焚き火大全』（著：吉長成恭）**
焚き火についてここまで書かれているものは非常に珍しく興味深い。また図書館で置く場合、分類が難しく、利用者の目に留まりにくい。そういったものこそ図書館に収蔵されてほしい。

幅　その本は樹種によって燃焼時間が変わることが書かれていたり、かなりユニークな本です。

### H さん

**『ともだち』（著：谷川俊太郎、和田誠）**
子どもに「友達」について考えさせる良い本。親から教えるだけでなく、本を通じて学べる。

幅　谷川俊太郎さんは子どもに対してすごく正直に書かれる作家さんですよね。

**『スタジオ・オラファー・エリアソン　キッチン』（著：Studio Olafur Eliasson）**
写真を通して食や世界を子どもに学ばせたい。

幅　食べるものによって自分の五感が変わってくるのではないかというそういう観点も含めて、食と芸術との境界を広域にするような本ですごく面白いですよね。

### S さん

**『愛するということ』（著：エーリッヒ・フロム）**

**『モモ』（著：ミヒャエル・エンデ）**
古典的な良書は読み継がれてほしい。

幅　同じ本でも二度と同じように読めない、読み重ねていくとどんどん印象が違ってくる。選んでいただいた 2 冊の本がずっとあり、読み続けられる。そういう場で、図書館はあってほしいですね。

### N さん

**『モモ』（著：ミヒャエル・エンデ）**
母に読んでもらったことを急に思い出した。50 年経っても覚えている、そういう本が図書館にはあってほしい。

**『火の鳥』（著：手塚治虫）**
昔からの良書を今の子どもにも読んでほしい。

幅　漫画作品でも価値の変わらないものは図書館にあるべきだと思いますね。

## A さん

**『翻訳できない世界のことば』（著：エラ・フランシス・サンダース）**

**『アイスの旅』（著：甲斐みのり）**
2 冊とも本を起点に会話ができるものをピックアップした。旅行好きで、日本各地のご当地アイスが載っているのが面白い。東京は様々な地方の方がいるので、会話のきっかけになりうる本。

**幅　一人で黙々と読む場所もある一方、誰かと本について共有できる場所もある。同じ館の中にどちらの機能もある、というのは大切なのかもしれないですね。**

## Y さん

**『あたしとあなた』（著：谷川俊太郎）**

**幅　名久井直子さんというデザイナーが手掛けられた本です。その本は布張りですが、デジタルではその本のテクスチャーが味わえないですし、装備をかけてしまっても同様に感じられない。ただ装備をかけないと長持ちしない。そういう矛盾も図書館ではあるのですが、ならではの魅力というものが紙の本ではあるのかなと思いました。**

**『叢の視点』（著：小田康平）**
個人的な好みで、表紙に惹かれて手に取った。

**幅　表紙を多く見せて直感的に選んでいただける機会を作ることも大切な一方、表紙だと収蔵できる冊数が減ってしまう。どう本を並べるかも難しい問題があります。見せる場所、充実させる場所、それぞれを作るのも大切ですよね。**

## O さん

**『Family of Man』（著：Edward Steichen）**
古典的な写真集で、良書として収蔵されてほしい。

**『せいめいのれきし』（著：バージニア・リー・バートン）**
子ども向けには難しいが、大事な本として選んだ。

**幅　こういう本がずっと置かれて、先ほどの『モモ』に近いかもしれないですけど、ずっと読み継がれている本がある。そういう図書館なのかなと思いました。**

## 図書館に期待すること

**M さん**
中央図書館や渋谷図書館をよく利用するが、昼間は男性利用者が多く女性が座りにくい雰囲気がある。女性専用室があるとよい。
旧渋谷図書館では一部天井がガラス張りで暑さを感じたため、空間設計を工夫してほしい。

**K さん**
自習利用の学生が締め出されないように、多様なニーズに応える空間やエリアを設けて、それぞれに合った机や座席の選択肢を用意してほしい。

**H さん**
最寄りの図書館は座席数が少ないため、新設図書館には多くの座席が欲しい。子どもが自習や勉強で利用できる環境が整うとうれしい。

**S さん**
『THE TOKYO TOILET BOOK』のようなアートブックを置いてほしい。ウィメンズプラザの机や学習スペース、選書の充実を参考にしてほしい。

**N さん**
蔵書数を増やしてほしい。
予約席はあるが、ふらっと来て気軽にパラパラ読みたい時の座席が少ない。

**A さん**
声を出せるスペースがあると子連れにうれしい。小さい子ども連れは図書館利用を諦めることがあるため。本の返却をしやすくする工夫も望む。

**Y さん**
発信力のある図書館であってほしい。

**O さん**
「ゆいの森あらかわ」のように子ども用スペースがあり、エリア分けがしっかりされている図書館が良い。新設図書館も広い面積でエリア分けや蔵書増加を期待したい。

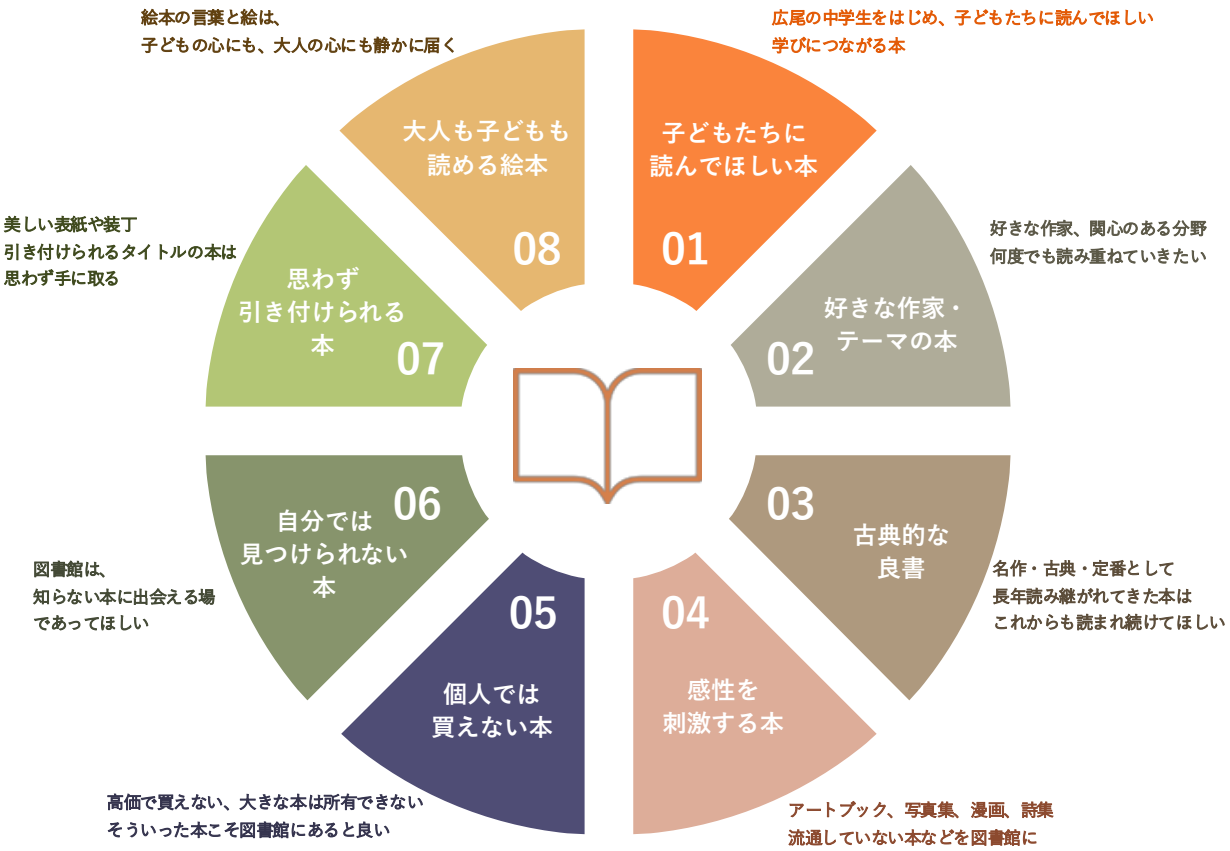
**幅　今回はインタビューを約 100 名の方へ行いました。色々なお声を集めて、それをベースにコンセプトや分類、どういう本を集めていくべきかの指針というものをこの後まとめていきたいと思います。完成は先になってしまうのですけれども、ぜひこのプロジェクトを末永く見届けていただけたらなと思います。ぜひ開館した暁には一度お出かけいただいて、今日皆さんが選んだ本が、並んでいるかどうかをご確認いただけたらありがたいなと思います。今日はお忙しい中、ありがとうございました。**

## 結果概要と考察

### 図書館に置いて欲しい本とその理由

インタビューで問いかけたテーマ「こんな本が渋谷区の図書館にあったらいいな、を 2 冊選ぶ」で参加者から寄せられた意見とその理由を整理・分析した結果、以下の 8 つのカテゴリに整理されました。選書の背景には多様な価値観や関心が見られ、以下の 8 つのカテゴリは、選書の方向性を検討する上での重要な視点となります。
さらに、8 つの中で配架に関しても参考となる意見として、「06 自分では見つけられない本」「07 思わず引き付けられる本」「08 大人も子どもも読める絵本」があります。

→カテゴリ詳細は P60 以降




「こんな本が渋谷区の図書館にあったらいいな、を 2 冊選ぶ」8 つのカテゴリ

## 新設図書館に期待すること

「新設図書館に期待すること」という問いかけに寄せられた意見を整理した結果、以下の 4 つのカテゴリに分類しました。

参加者からは、新設図書館の機能や運営に関しても、さまざまな期待や提案が寄せられました。01～04 を掛け合わせることで図書館機能の充実を図っていく必要があります。単に蔵書の充実を求めるだけでなく、空間の使い方やサービスの在り方など、利用体験全体に関わる多面的な関心が示されました。

→カテゴリ詳細は P72 以降

**01 配架方法**

表紙を見せる配置
テーマで並べるなど
偶然の出会いを
楽しみたい

**02 蔵書**

マニアックな本
海外の珍しい本など
幅広いジャンルで
選書を充実してほしい

**03 空間・設備**

長時間滞在しやすい
雰囲気づくり
多様な利用ができる
空間が良い

**04 サービス**

図書館は
人と本、人と人とがつながる
コミュニティの場
であってほしい

「新設図書館に期待すること」4 つのカテゴリ

## インタビューワークの中で選ばれた本
## （こんな本が渋谷区の図書館にあったらいいな、を 2 冊選ぶ）（詳細）

### 01　子どもたちに読んでほしい本

**広尾の中学生をはじめ、子どもたちに読んでほしい、学びにつながる本**

01「子どもたちに読んでほしい本」では、哲学・歴史・文化・自然・戦争・言語など幅広いテーマにわたる本があげられ、読書を通して視野を広げ、思考を深め、他者を理解する機会を図書館に求める声が多数ありました。「平和について子どもの頃から考えてほしい」「この本をきっかけに世界に関心を持ってほしい」など、知識の獲得だけでなく、現実世界と結びついた学びへの期待が色濃く表れています。

| No. | 本のタイトル | 選んだ理由 |
|---|---|---|
| 1 | 『モモ』<br>著：ミヒャエル・エンデ | • 中学生の時に読んで、多くのことを考えさせられた本。 |
| 2 | 『世界の図書館を巡る』<br>編集：ゲシュタルテン | • 世界の美しい図書館を紹介した本。自分も所有しているが、この本をきっかけに多くの人に世界への関心を持ってもらえたらと思う。<br>• 写真がとてもきれいで、見ているといろいろな国に行ったような気持ちになれる。 |
| 3 | 『焚き火大全』<br>著：吉長成恭 | • この一冊で焚き火に関する実用や文学的な知識を幅広く知ることができる。自分は子どものころ焚き火に触れる機会があり、この本から関心を広げてほしい。 |
| 4 | 『休むヒント。』<br>著：群像編集部 | • 大学生活で時間に余裕ができたが、休み方がわからずだらだら過ごしてしまう日も多い。エッセイ形式で気軽に読める点がよい。 |
| 5 | 『翻訳できない世界のことば』<br>著：エラ・フランシス・サンダース | • 翻訳できない言葉をテーマにしていて面白い。<br>• 多国籍な渋谷区にふさわしい一冊。読み方も書かれていて楽しく、地図と併せて世界が広がる。 |
| 6 | 『アイスの旅』<br>著：甲斐みのり | • 全国各地の郷土アイスの図鑑が図書館にあると、図書館から日本各地の文化に触れられる楽しみがある。 |
| 7 | 『戦争は女の顔をしていない（コミック版）』<br>著：小梅けいと<br>原作：スヴェトラーナ・アレクシエーヴィチ | • 中学生にどんな本を手に取ってほしいかを基準に選択。誰かと話したくなり、授業なら教員に質問もでき、自分で考えるきっかけになる本。<br>• マンガの力で若い世代への入口を広げたい。装丁も工夫し、多くの人が手に取りやすいように。 |
| 8 | 『手の倫理』<br>著：伊藤亜紗 | • 哲学書だが、わかりやすい言葉で書かれていて頭に入りやすい。中学生だと読んだ時に難しさを感じると思うが、その葛藤を感じてほしい。 |
| 9 | 『風の谷のナウシカ』<br>著：宮﨑駿 | • 内容が深く、生き方や様々なことが学べる本。 |
| 10 | 『生きているのはなぜだろう。』<br>著：池谷裕二、田島光二 | • 哲学を高校生の時に興味を持った。こういう本を手にとって、哲学の良さに触れてほしい。 |

| No. | 本のタイトル | 選んだ理由 |
|---|---|---|
| 11 | 『父のアルバム』<br>著：野口里佳 | • 生活史に関心があり、本を通じて時代の変遷や思い出について考えるきっかけになる。渋谷区は海外の方も来る。この本でそういったことを海外の方にも伝えられる。 |
| 12 | 『中学生から知りたいパレスチナのこと』<br>著：岡真理、小山哲、藤原辰史 | • 現代ならではのトピックと感じる。<br>• 平和教育について考える中で、戦争の悲惨さだけでなく、文化の違いを平易に伝える本も必要だと思った。中高生にとって良い教材になりそう。<br>• 複雑なパレスチナ問題について知りたい。日本以外の国についても学べるため。 |
| 13 | 『それでも日本人は「戦争」を選んだ』<br>著：加藤陽子 | • 平和について子どもの内から考えてほしいから。 |
| 14 | 『あさになったのでまどをあけますよ』<br>著：荒井良二 | • 人生にも繋がる「夜明け」のイメージ。絵も美しく余韻や余白があり、全世代が手に取れる。 |
| 15 | 『くらしのこよみ』<br>編：うつくしいくらしかた研究所 | • 季節感や生活の潤い、思い出にアクセスできる。純粋に楽しめる本。 |
| 16 | 『平行植物』<br>著：レオ・レオーニ | • 想像の次の想像という感じ。小さな子から大きな子まで読んでほしい絵本的な一冊。著者名でのつながりも感じる。 |
| 17 | 『ナマケモノのいる森で』<br>著：ソフィー・ストラディほか | • 二人で読むなど様々な楽しみ方ができる点が素敵。 |
| 18 | 『生き物としての力を取り戻す 50 の自然体験』<br>監修：カシオ計算機株式会社 | • 自然やリフレッシュ、日々の小さな楽しみを図書館で見つけられたらうれしい。<br>• 最初は、つまらなそうに感じた。でも開いてみると、自分で行動を起こせる内容が書かれていて良かった。こういった「体験」につながるものがあると良いと思った。 |
| 19 | 『雪のうた』<br>編：左右社編集部 | • テーマごとに好きな言葉を見つけられる本は日常の楽しみ。 |
| 20 | 『新版 呼吸の本』<br>著：加藤俊朗、谷川俊太郎 | • 積読本のひとつだが、発見や気づきがありそうな一冊。 |
| 21 | 『台所探検家、地球の食卓を歩く』<br>著：岡根谷実里 | • 食を通じて世界を体験できる本。特集コーナーや読後の仕組みがあれば更に楽しい。 |
| 22 | 『Creature』<br>著：Andrew Zuckerman | • 文章は読むのに時間がかかるが、写真集はパラパラと気軽に読める。ズームされた動物の目など、他の本とは違う視点の写真があり、とても楽しかった。 |
| 23 | 『せいめいのれきし』<br>著：バージニア・リー・バートン | • 何度も読むうちに新たな発見がある本。図書館にあると、そのたびに新しい気づきがあり、より深く知るきっかけになる。石井桃子さんの訳文も読みやすい。 |
| 24 | 『発酵文化人類学』<br>著：小倉ヒラク | • 発酵は日本独自ではなく世界中にある文化で、「世界を知る」という意味で選んだ。 |
| 25 | 『ともだち』<br>著：谷川俊太郎、和田誠 | • 子どもに「友達」について考えさせる良い本。親から教えるだけでなく、本を通じて学べる。 |
| 26 | 『スタジオ・オラファー・エリアソン　キッチン』<br>著：Studio Olafur Eliasson | • 写真を通して食や世界を子どもに学ばせたい。 |

## 02　好きな作家・テーマの本

### 好きな作家・関心のある分野、何度でも読み重ねていきたい

02「好きな作家・テーマの本」においては、好きな作家や関心のあるテーマに基づいて本を選んでいる参加者の意見をまとめました。「昔読んで印象に残っている本」「何度でも読み返したい本」にまた出会えることへの安心感が語られ、図書館には“手元に置かなくてもまた出会える安心感”を求める姿勢が見受けられます。

| No. | 本のタイトル | 選んだ理由 |
|---|---|---|
| 1 | 『生き物としての力を取り戻す 50 の自然体験』<br>監修：カシオ計算機株式会社 | • 登山部に所属しているので関心があった。カシオが監修している点にも独特な魅力を感じた。 |
| 2 | 『せいめいのれきし』<br>著：バージニア・リー・バートン | • 10 年前に読んで印象深く、再読したいと感じている。 |
| 3 | 『雪のうた』<br>編：左右社編集部 | • 自分が好きだから。 |
| 4 | 『工芸青花　3 号』<br>編：菅野康晴、衣奈彩子 | • 好きなルネ・ラリックの作品など、工芸に関する写真集が充実しているとうれしい。 |
| 5 | 『どもる体』<br>著：伊藤亜紗 | • 健康や科学に関心があるが購入まではしない本、新たな視点を得たい。 |
| 6 | 『マンガ！大英博物館マンガ展図録』<br>著：ニコル・クーリッジ・ルーマニエール | • 背表紙に大好きな鳥獣戯画が載っていた。漫画はあまり好きではないが、鳥獣戯画のほうから読みたいと思った。 |
| 7 | 『伊丹十三の台所』<br>著：伊丹十三 | • 存在は知っていたが本屋になくて、ここで見られてうれしい。 |
| 8 | 『数と夕方』<br>著：管啓次郎 | • 疲れたときに短い詩集が読みやすい。詩はもっと手前に出してもよい。 |
| 9 | 『Savoir & Faire 土』<br>編集：エルメス財団 | • タイトルの意外さ、エルメス財団による出版に興味を持つ。 |
| 10 | 『翻訳できない世界のことば』<br>著：エラ・フランシス・サンダース | • お気に入りで何度も読み返したくなる言葉集。 |
| 11 | 『ともだち』<br>著：谷川俊太郎、和田誠 | • 家にある本。 |
| 12 | 『平行植物』<br>著：レオ・レオーニ | • いま草木に関心がある。レオ・レオーニの絵本は好きで、ねずみの絵などのイメージを持っていたので、こうした作品は意外でおもしろかった。本に出てくる植物を見て、「もっと知りたい」と感じた。 |
| 13 | 『火の鳥』<br>著：手塚治虫 | • 昭和のマンガが好き。絵がきれいで、今のものとは違った印象がある。 |
| 14 | 『モモ』<br>著：ミヒャエル・エンデ | • 時間泥棒が怖いけれど、ドキドキする本が好きなので。<br>• 母に読んでもらったことを急に思い出した。 |

| No. | 本のタイトル | 選んだ理由 |
|---|---|---|
| 15 | 『数学する身体』<br>著：森田真生 | • 文字が多いので読むのは大変そうだが、数学が好きなので手に取った。 |
| 16 | 『戦争とデザイン』<br>著：松田行正 | • 仕事でデザインをする機会が多く、戦争の時代に選ばれたデザインについて興味がある。 |
| 17 | 『センス・オブ・ワンダー』<br>著：レイチェル・カーソン | • 高校時代は理系で、『沈黙の春』(著：レイチェル・カーソン)を読んだことがある。この本はその続編のように感じて手に取った。 |
| 18 | 『世界の図書館を巡る』<br>編集：ゲシュタルテン | • 本がたくさん並んでいて、ワクワクする。図書館が好き。 |
| 19 | 『自分の感受性くらい』<br>著：茨木のり子 | • 別の女性作家が紹介していて気になっていた。詩の一節が印象に残り、ちゃんと読んでみたいと思った。小説は没入感が得られないときに読後感がもどかしいが、詩集があると安心する。 |
| 20 | 『自分のために料理を作る』<br>著：山口祐加、星野概念 | • 料理本が好きでよく読む。ケアという言葉が表紙に書かれていたり、対話形式で構成されていたりする意外性に惹かれた。 |
| 21 | 『味がある。』<br>著：マメイケダ | • マメイケダさんの作品が好きで原画展にも行った。図書館ではあまり見かけないので、収蔵してほしい。眺めて癒される本。 |

## 03　古典的な良書

### 名作・古典・定番として長年読み継がれてきた本は、これからも読まれ続けてほしい

03「古典的な良書」では、『モモ』や『火の鳥』といった「時代を超えて読み継がれてきた」「多くの人の記憶や人生に影響を与えてきた」本とそれを置きたい理由をまとめました。「幼少期に親に読んでもらった」「長く愛されてきた本は、図書館に常に置いてあってほしい」「絶版になった名作こそ図書館が所蔵してほしい」といった声からは、図書館ならではの「アーカイブズ」としての役割への期待がにじみ出ています。

| No. | 本のタイトル | 選んだ理由 |
|---|---|---|
| 1 | 『モモ』<br>著：ミヒャエル・エンデ | • 幼少期に母に読んでもらった思い出の一冊。読み継がれる本は図書館に収蔵してほしい。<br>• 多くの人が読み重ねてきた価値を感じる。<br>• 古典的な良書は読み継がれてほしい。 |
| 2 | 『二十億光年の孤独』<br>著：谷川俊太郎 | • こうした名作は、これからも読み継がれてほしいし、図書館に常に置いてあってほしい。 |
| 3 | 『新訳　星の王子さま』<br>著：サン=テグジュペリ | • 幼い頃に母に読んでもらって衝撃を受けた本で、箱根の博物館にも行ったほど印象に残っている。こうした名作は、これからも読み継がれてほしいし、図書館に常に置いてあってほしい。 |
| 4 | 『ねこに未来はない』<br>著：長田弘 | • 始まる前に教えていただいた本。児童書店で働いていたときに、素晴らしいと思っていた本が絶版になった。図書館の良いところは絶版の本でも所蔵されているところ。新しい図書館でもそうあってほしい。 |
| 5 | 『愛するということ』<br>著：エーリッヒ・フロム | • 古典的な良書は読み継がれてほしい。 |
| 6 | 『火の鳥』<br>著：手塚治虫 | • 昔からの良書を今の子どもにも読んでほしい。 |
| 7 | 『Family of Man』<br>著：Edward Steichen | • 古典的な写真集で、良書として収蔵されてほしい。 |
| 8 | 『せいめいのれきし』<br>著：バージニア・リー・バートン | • 子ども向けには難しいが、大事な本として選んだ。 |

## 04　感性を刺激する本

### アートブック、写真集、漫画、詩集、流通していない本などを図書館に

04「感性を刺激する本」では、詩や短歌、写真集、ファッション、美術、海外文学など、芸術的・感性的な分野の充実を求める声をまとめました。
そうした関心は、特定の分野として「美術書」を探すのではなく、食や暮らしなどのテーマを手がかりに、芸術的な本とも自然につながりたいという実感に基づくものです。従来の NDC※分類に縛られず、ジャンルの枠を越えて自由に本と出会える空間としての図書館を望む意見が見られます。
また、定番作品にとどまらず、より多様で奥行きのある漫画作品への期待も寄せられました。美術館のように感性を刺激しながらも、誰もが自由にアクセスできる場として、図書館が多様な表現を受け止めることへの期待が表れています。
※「NDC（日本十進分類法）」：図書館では、本を内容ごとに 10 分野（0～9）に分け、番号順に並べています。

| No. | 本のタイトル | 選んだ理由 |
|---|---|---|
| 1 | 『アンリミテッド: コム デ ギャルソン』<br>著：清水早苗、NHK 番組制作班 | • 大学図書館にはファッション関係の大判本が少ないため、図書館でじっくり読みたい。 |
| 2 | 『雪のうた』<br>編：左右社編集部 | • 短歌は学校卒業後に触れる機会が減る。図書館で収蔵されれば接点が生まれる。 |
| 3 | 『叢の視点』<br>著：小田康平 | • 生き物好きで図鑑や写真集をよく買うが、地元図書館にはそれらが少ないので、図鑑や写真集をもっと集めてほしい。 |
| 4 | 『Act of Love』<br>監修：上田恵介、小宮輝之、大渕希郷ほか | • （同上） |
| 5 | 『クレーの絵本』<br>著：パウル・クレー、谷川俊太郎 | • 過去行ったことのある図書室や図書館には、詩集が奥まったところに少しだけ置かれていることが多かったため、詩に触れる機会が少なかった。挿絵のついた素敵な詩集がたくさん置かれている図書館が良いと思った。 |
| 6 | 『堀部安嗣作品集』<br>著：堀部安嗣 | • 写真を紙で見る機会が減っているため、図書館に置いてほしい。 |
| 7 | 『Creature』<br>著：Andrew Zuckerman | • （同上） |
| 8 | 『熊谷守一画文集 ひとりたのしむ』<br>著：熊谷守一 | • 素晴らしい作家。美術と本の融合を感じられる。美術館はお金がかかるが、図書館なら無料で美術に触れられることも含めて推したい。 |
| 9 | 『ねこに未来はない』<br>著：長田弘 | • 古い本の価値や図書館の役割を感じさせる。流通しない本の保存のためにも図書館では置いてほしい。 |
| 10 | 『せいめいのれきし』<br>著：バージニア・リー・バートン | • とにかく絵本を置いてほしいという思いから選んだ。 |
| 11 | 『喫茶店の水』<br>著：qp | • 偏愛や個人の好みが反映された本が面白いと感じる。 |

| No. | 本のタイトル | 選んだ理由 |
|---|---|---|
| 12 | 『エル・スール』<br>著：アデライダ・ガルシア＝モラレス | • 一般的な図書館には定番の海外小説しか置かれていないことが多く、多様で奥行きのある海外文学がきちんと揃っていてほしい。 |
| 13 | 『戦争は女の顔をしていない（コミック版）』<br>著：小梅けいと、原作：スヴェトラーナ・アレクシエーヴィチ | • アレクシエーヴィチの作品はもともと好き。マンガという形なら、さまざまな人に読んでもらえると思った。図書館では手塚治虫など基本的なものばかりで、もう少し踏み込んだ作品もあるとよい。 |
| 14 | 『スタジオ・オラファー・エリアソン　キッチン』<br>著：Studio Olafur Eliasson | • アートと料理が重なるような、ジャンルにとらわれない本もあるとよいと思って選んだ。図書館ではジャンル分けが明確すぎて、こういった本を見つけるのが難しい。テーマがグラデーションのように緩やかにつながっている配架があるとおもしろい。他言語の本についても、図書館では過去に寄贈されたままのようなものが多い。『ベビー・シッターズ・クラブ』（著：アン・M・マーティン）のように、最近の Netflix で映像化された作品が他言語で読めたらうれしい。絵本なども、異なる言語バージョンが一緒に並んでいてもよいと思う。 |
| 15 | 『マンガ！大英博物館マンガ展図録』<br>著：ニコル・クーリッジ・ルーマニエール | • 渋谷の図書館はマンガが少ないので、もっと種類を増やしてほしい。 |
| 16 | 『PIG　05049』<br>著：Christien Meindertsma | • アートブックは自分ではなかなか出会えないので、図書館にあれば手に取りやすい。 |
| 17 | 『Kanon』<br>著：山上新平 | • （同上） |

## 05　個人では買わない本

### 高価、大きな本は所有できない、そういった本こそ図書館にあると良い

05「個人では買わない本」では、価格や物理的サイズの点から「個人では手に入れづらいが、見てみたい」「所有は難しいが、読みたい」とされる書籍が選ばれています。「価格が高くて迷っていた」「文庫なら買うがハードカバーではためらう」「シリーズは全巻そろえるのが難しい」といった理由や、「紙でじっくり見たい」「家に置けないサイズのものでも図書館なら」という声が目立ちます。

| No. | 本のタイトル | 選んだ理由 |
|---|---|---|
| 1 | 『好きな食べ物がみつからない』<br>著：古賀及子 | • 以前から気になっていた本。文庫なら即決で買うが、価格帯で購入を迷う。図書館にあるとありがたい。こういう読みやすそうな本が図書館にあることも大事。 |
| 2 | 『火の鳥』<br>著：手塚治虫 | • 複数巻のシリーズは購入しづらいので、図書館にあると手に取りたくなる。<br>• 全巻購入は高額なので図書館でそろえてほしい。 |
| 3 | 『喫茶店の水』<br>著：qp | • 中高生の頃、写真集や図鑑のような本をパラパラめくるのが好きだった。写真集は高価なので図書館に収蔵されているとうれしい。 |
| 4 | 『世界の図書館を巡る』<br>編集：ゲシュタルテン | • （同上） |
| 5 | 『Paul Rand: A Designer's Art』<br>著：ポール・ランド | • 絵画が好きだが画集や図録は家に置ききれないため、図書館で見たい。 |
| 6 | 『自然派ワイン入門』<br>著：イザベル・レジュロン | • ワイン本は大判で高価。こういった本は図書館で楽しみたい。 |
| 7 | 『Shoji Ueda』<br>著：植田正治 | • 写真集は少し高いが、写真集のもつ快楽や感性への刺激、図書館で出会いたい一冊。 |
| 8 | 『SONY DESIGN MAKING MODERN』<br>著：ディヤン・スジック | • アートブック的な洋書は高価で自分で買いづらく、図書館で気軽に眺めたい。 |
| 9 | 『TOKYO STYLE』<br>著：都築響一 | • 写真集は価格も高く、重たくて持ち帰るのが大変、ネット通販では中身がわからない。図書館なら一度見て気に入ったものは自転車に乗せて持ち帰れる。 |
| 10 | 『Act of Love』<br>監修：上田恵介、小宮輝之、大渕希郷ほか | • 図書館では子どもと一緒に大きな本を借りることが多い。家では置けないサイズなので図書館で気軽に読めてありがたい。絵はモニターではなく紙で見たい。 |
| 11 | 『Creature』　著：Andrew Zuckerman | • （同上） |
| 12 | 『スタジオ・オラファー・エリアソン　キッチン』<br>著：Studio Olafur Eliasson | • 写真が美しく、作る過程が紹介されていておもしろい。自分では買わないが、図書館でなら出会いたい本。 |
| 13 | 『TOKYO STYLE』<br>著：都築響一 | • 懐かしい写真が収められている。写真集は値段も高く、場所も取るので個人が所有するのは難しい。図書館にあるとうれしい。 |
| 14 | 『Sunny』<br>著：松本大洋 | • 漫画は素晴らしい作品がたくさんあるが、普通の本よりかさばる。図書館で読みたいが『ひとりでしにたい』（著：カレー沢薫、ドネリー美咲ほか）など大人向けコミックの置かれ方に物足りなさを感じる。 |

## 06　自分では見つけられない本

### 図書館は、知らない本に出会える場であってほしい

06「自分では見つけられない本」では、図書館が“偶然の発見”を生み出す場であってほしいという意見をまとめました。人気作家や話題作のように探して読む本だけでなく、自分ではなかなか見つけられない分野や著者、珍しいテーマの本と出会える場としての図書館への期待が表れています。
表紙を見せて陳列することで思わず立ち止まって見てしまう体験、分類で並べてしまうと素通りする本をあえて展示する工夫など、「知らなかったけれど面白い」と感じるきっかけを求める声が目立ちました。図書館が、偶然と発見を通して新たな関心をひらく場所であることへの期待が感じられます。

| No. | 本のタイトル | 選んだ理由 |
|---|---|---|
| 1 | 『工芸青花　3 号』<br>編：菅野康晴、衣奈彩子 | • 表紙を見て何の本か全くわからなかった。図書館では背表紙で置かれていても手に取らないが、表紙を見せて置かれていると何の本かわからないので、気になって手に取ってしまうと思う。 |
| 2 | 『発酵文化人類学』<br>著：小倉ヒラク | • この本を読みたいと思い探す人はなかなかいないと思った。図書館は知らなかった本との出会いの場であってほしいという思いで選んだ。<br>• 発酵が好きで、家でも発酵食品を作っている。多くの人に読んでほしいと思い、手に取った。好きな小説や人気作家の本は手に取りやすいが、こういったジャンルの本は、自分から探しに行かないとなかなか出会えない。本のデザインも面白く、面で陳列されたほうが魅力が伝わりやすいと思う。 |
| 3 | 『翻訳できない世界のことば』<br>著：エラ・フランシス・サンダース | • この本を読みたいと思い探す人はなかなかいないと思った。図書館は知らなかった本との出会いの場であってほしいという思いで選んだ。 |
| 4 | 『雪を作る話』<br>著：中谷宇吉郎 | • 世間ではあまり知られていない自然科学者。若者の人間育成にもつながる著作。 |
| 5 | 『Sunny』<br>著：松本大洋 | • 漫画が日本の文化となっていることに注目し、表現力・物語性に着目。多くの人に読んでほしい。 |
| 6 | 『風の谷のナウシカ』<br>著：宮﨑駿 | • 元々漫画と聞いていたが実物に驚いた。 |
| 7 | 『ねこに未来はない』<br>著：長田弘 | • おすすめされたことがきっかけ。 |
| 8 | 『くらしのこよみ』<br>編：うつくしいくらしかた研究所 | • なかなか他の図書館では読めなさそうというのを選んだ。日本人の日常や知恵が詰まっていて、皆が発見を楽しめる本。 |
| 9 | 『伊丹十三の台所』<br>著：伊丹十三、つるとはな編集部 | • なかなか他の図書館では読めなさそうというのを選んだ。伊丹十三の面白さが伝わるきっかけになってほしい。 |
| 10 | 『焚き火大全』<br>著：吉長成恭 | • 焚き火についてここまで書かれているものは非常に珍しく興味深い。また図書館で置く場合、分類が難しく、利用者の目に留まりにくい。そういったものこそ図書館に収蔵されてほしい。 |

## 07　思わず引き付けられる本

### 美しい表紙や装丁、引き付けられるタイトルの本は、思わずページをめくりたくなる

07「思わず引き付けられる本」では、「手触りや紙質、表紙のデザインに惹かれた」「タイトルの言葉が気になった」といった意見をまとめました。図書館に求められているのは知識の提供だけでなく、本棚に並んだ本から“思わず取り出しページをめくりたくなる”仕掛けが求められていることが伺えました。

| No. | 本のタイトル | 選んだ理由 |
|---|---|---|
| 1 | 『あたしとあなた』<br>著：谷川俊太郎 | • 表紙や本文の紙の質感、デザイン、装丁に惹かれた。<br>• 表紙に文字がなくて気になり、開いてみると紙質が優しく感じた。詩集なので気軽に読めそう。<br>• 装丁の手触りやカバー裏の絵に惹かれる。本の物理的な質感をそのまま味わってほしい。<br>• 表紙に惹かれて手に取った。 |
| 2 | 『Savoir & Faire 土』<br>編集：エルメス財団 | • 装丁が美しくて手に取った。 |
| 3 | 『ともだち』<br>著：谷川俊太郎、和田誠 | • 和田誠による装丁が魅力。ここから星新一にも関心が広がればよい。 |
| 4 | 『好きな食べ物がみつからない』<br>著：古賀及子 | • 表紙が可愛くて手に取りたくなった。 |
| 5 | 『静寂とは』<br>著：アーリング・カッゲ | • 表紙とタイトルに惹かれた。図書館という静かな場所で読んでみたいと感じた。日常の騒がしさの中で「静寂」の大切さを考えさせられる。 |
| 6 | 『傷を愛せるか』<br>著：宮地尚子 | • タイトルが問いかけるようで心に残った。読んでみたいと思った。<br>• タイトルに惹かれて手に取った。小説のようで日常を切り取る内容が共鳴を呼び、自分で考えるきっかけになりそうだと思った。 |
| 7 | 『JAZZ SONG BOOK』<br>著：五味太郎 | • ジャズそのものは敷居が高いが、可愛いイラストと歌詞のコレクションで、曲を知らなくても楽しめるはず。 |
| 8 | 『THE TOKYO TOILET BOOK』 | • センスある造りが好きで、この本がある図書館はおもしろい図書館だと思った。トイレというテーマにも考えさせられるものがあるため。 |
| 9 | 『翻訳できない世界のことば』<br>著：エラ・フランシス・サンダース | • やさしい挿絵と魅力的な装丁。渋谷は異文化交流が多い土地なので、この本で世界を知るきっかけにしてほしい。 |
| 10 | 『ティファニーのテーブルマナー』<br>著：ウォルター・ホービング、J.ユーラ | • イラストや装丁も楽しく興味が湧く。 |
| 11 | 『ON READING』<br>著：アンドレ・ケルテス | • スタイリッシュな装丁に惹かれ、中もモノクロの写真が素敵。 |
| 12 | 『動いている庭』<br>著：ジル・クレマン | • 表紙の写真にも惹かれる。 |

| No. | 本のタイトル | 選んだ理由 |
|---|---|---|
| 13 | 『静寂とは』<br>著：アーリング・カッゲ | • タイトルから内容がわからず興味を持った。 |
| 14 | 『数学する身体』<br>著：森田真生 | • 身体性や認知をテーマにした本がマイブーム。 |
| 15 | 『ティファニーのテーブルマナー』<br>著：ウォルター・ホービング、J.ユーラ | • イラストも素晴らしく、過去の価値観や品格のようなものも感じてほしい。 |
| 16 | 『デジタルで読む脳 × 紙の本で読む脳』<br>著：メアリアン・ウルフ | • タイトルにとても興味を惹かれた。 |
| 17 | 『生きているのはなぜだろう。』<br>著：池谷裕二、田島光二 | • 少し怖い絵もあるが、その“ほどよい怖さ”が子どもにとってよい刺激になる。直感的に選んだ本。 |
| 18 | 『ぼく』<br>著：谷川 俊太郎、イラスト：合田里美 | • 絵がきれいでおもしろかった。表紙を見て選んだ。本は表紙で選ぶことが多い。 |
| 19 | 『よあけ』<br>著：ユリー・シュルヴィッツ | • 孫とおじいさんが気になって手に取った。いつも 20 冊くらい借りている。ぱっと手に取って、表紙を見て決めることが多い。 |
| 20 | 『叢の視点』<br>著：小田康平 | • 表紙に惹かれて手に取った。 |

## 08　大人も子どもも読める絵本

### 絵本の言葉と絵は、子どもの心にも、大人の心にも静かに届く

08「大人も子どもも読める絵本」では、意見の中に、子どもから大人まで楽しめる絵本や、絵本的な要素を持つ本への関心が多く寄せられたこと、表紙や絵、タイトルに惹かれたという意見に加え、やさしさや想像力を喚起する内容が世代を問わず心に残るという声がありました。
また、科学と文学の横断や、絵本エリアと一般書との境界を越えるような蔵書構成を望む意見もあげられました。絵本が、子どもだけでなく大人も楽しめる本として選書され、より多くの世代が絵本に親しめる場となることへの期待が伺えます。

| No. | 本のタイトル | 選んだ理由 |
|---|---|---|
| 1 | 『まばたき』<br>著：穂村弘、イラスト：酒井駒子 | • 表紙のインパクト、時間の流れを本でしか体験できない方法で表現している点に惹かれた。絵本もよく手に取る。 |
| 2 | 『生き物としての力を取り戻す 50 の自然体験』<br>監修：カシオ計算機株式会社 | • タイトルにまず惹かれた。書いてあることを実際に体験しなくても、眺めるだけで楽しく、子どもから大人まで楽しめる一冊だと感じる。 |
| 3 | 『ぼく』<br>著：谷川俊太郎、イラスト：合田里美 | • 表紙やタイトル、そして久しぶりに絵本を読みたくなった気持ちで選んだ。 |
| 4 | 『どんなかんじかなあ』<br>著：中山千夏、和田誠 | • 和田誠の絵に惹かれた。他者へのやさしさや思いやりを感じる本であり、大人・子ども問わず手軽に読めて心に残る。「偶然の出会い」を生む本として図書館に置きたい。 |
| 5 | 『平行植物』<br>著：レオ・レオーニ | • 想像の次の想像という感じ。小さな子から大きな子まで読んでほしい絵本的な一冊。著者名でのつながりも感じる。 |
| 6 | 『雪を作る話』<br>著：中谷宇吉郎 | • シリーズスタンダードブックスのコンセプトや物理的サイズが好み。科学と文学の横断を評価し、大人子ども問わず手に取れる書として選択。 |
| 7 | 『ともだち』<br>著：谷川俊太郎、和田誠 | • 絵本エリアとの境界を曖昧にすることでこういった本にもアクセスできる。 |
| 8 | 『クレーの絵本』<br>著：パウル・クレー、谷川俊太郎 | • 図書館でこういうものに出会いたい。大人も読める絵本の重要性を感じているが、こういう手の本は図書館に置いていない。 |
| 9 | 『Sunny』<br>著：松本大洋 | • 漫画は素晴らしい作品がたくさんあるが、普通の本よりかさばる。図書館で読みたいが『ひとりでしにたい』（著：カレー沢薫、ドネリー美咲ほか）など大人向けコミックの置かれ方に物足りなさを感じるため選択。 |

## インタビューワークの中で、新設図書館に期待すること（こんな図書館になってほしい）

### 01 配架方法

**表紙を見せる配置、テーマで並べるなど、偶然の出会いを楽しみたい**

01「配架方法」では、本の並べ方についての意見を中心にまとめています。
「出会いを生む工夫」を重視した配架方法についての意見が多く寄せられました。例えば「面陳列（表紙を見せた配置）の方が手に取りやすい」「テーマで本を横断的に並べて、思わぬ発見を促す」といった具体的提案があり、従来の NDC 分類※にとらわれない柔軟な配架への期待が感じられます。
複数の参加者からは「本棚を巡って偶然の出会いを楽しみたい」という声もあり、図書館内を歩く楽しさや本の探しやすさを向上させる配架方法の重要性が強調されました。
※「NDC（日本十進分類法）」：図書館では、本を内容ごとに 10 分野（0～9）に分け、番号順に並べています。

| No. | 意見 |
|---|---|
| 1 | • 本の配置やジャンル分けがユニークな図書館が理想。NDC に縛られない独自の分類方法も採用してほしい。興味のある本をきっかけに他の本へと関心が広がる仕掛けがあるとうれしい。 |
| 2 | • 知らない本との出会いが生まれる場所。 |
| 3 | • 「青山ブックセンター」入口のディスプレイのように、本と出会える場所。 |
| 4 | • 館が小さくても本を手に取りやすいように、面出しを中心としたレイアウト、様々な閲覧スタイルに対応する家具の工夫、文字が少なく眺めるだけでも楽しいビジュアル本を重視した図書館。 |
| 5 | • ツタヤ書店のようにテーマごとに横断的に本を並べてほしい。 |
| 6 | • 本が常に動いているような雰囲気の図書館がよい。固定的な分類にせず流動性を持たせることで、自分が求めていなかった本との出会いが生まれる。 |
| 7 | • 絵本が大人コーナーにも置かれている図書館が良い。どの世代でも新たな本との出会いが生まれるようにしてほしい（※例：早稲田大学村上春樹ライブラリーで、村上春樹が翻訳した絵本を司書に紹介された経験）。 |
| 8 | • 「こども本の森 中之島」や「ゆいの森あらかわ」のように、子どもが興奮するような見せ方（展示）や、階段を椅子代わりにできる空間づくりに魅力を感じる。 |
| 9 | • 本のジャンル分け（分類）をきちんと行い、利用目的に応じたゾーニングをしてほしい。また、分類によって見落とされがちな本をフォローできる仕掛けも欲しい。 |

## 02 蔵書

### マニアックな本、海外の珍しい本など、幅広いジャンルで選書を充実してほしい

02「蔵書」では、蔵書の充実と、内容面への要望の意見についてまとめました。
内容面への要望は、「こんな本が渋谷区の図書館にあったらいいな、を 2 冊選ぶ」においても同様の意見が寄せられ、重複する部分もあります。
幅広いジャンルの本を揃えてほしい、詩集やマニアックな本、海外の珍しい本も置いてほしいといった意見が学生から一般利用者まで幅広い層から出されました。
特に「多様で奥行きのある海外文学をきちんと揃えてほしい」「絶版になった良書を図書館でこそ読めるようにしてほしい」といった声からは、図書館ならではの豊富な蔵書への期待が伺えます。また「大人も楽しめる児童書」や「漫画をもっと充実させてほしい」との声もあり、年齢や興味に応じた蔵書の拡大を求める傾向が見られました。

| No. | 意見 |
|---|---|
| 1 | • 大学図書館は学術書が豊富だが、渋谷区立図書館は郷土資料だけでなく、渋谷のカルチャーも含め、幅広いジャンルで渋谷を体感できる本があるとよい。 |
| 2 | • 世界中のさまざまなことを知るきっかけや「ここに行ってみたい」と思える場所になってほしい。 |
| 3 | • 書店ではなかなか見つからない、一度しか翻訳されていない海外 SF 作品など資料価値の高い本があるとうれしい。 |
| 4 | • 詩集が豊富な図書館にしてほしい。気に入ったものは購入したいので、まずは図書館でじっくり読みたい。 |
| 5 | • 目的がなくても楽しめる図書館。 |
| 6 | • 人生で見逃していた名著や、あらゆるジャンルを小さい子から大人まで導けるよう、広尾中学校併設の利点を活かして幅広い蔵書で対応してほしい。 |
| 7 | • 大人でも楽しく読めて子どもと一緒に楽しめる本があるとよい。あまり長時間ではなく短時間で読める本が好ましい。 |
| 8 | • 本がたくさんある空間。 |
| 9 | • 『THE TOKYO TOILET BOOK』のようなアートブックを収蔵してほしい。 |
| 10 | • 蔵書数を増やしてほしい。 |
| 11 | • 新設館では面積を活かして蔵書数も大幅に増やしてほしい。 |
| 12 | • 皆の声を集め AI で選書するなど、新しい選書手法に期待。 |

## 03 空間・設備

### 長時間滞在しやすい雰囲気づくり、多様な利用ができる空間が良い

03「空間・設備」では、図書館の空間デザインや設備に関連する意見をまとめました。
とりわけ「静と賑やかさのゾーニング」「くつろげる座席や長時間滞在しやすい雰囲気」「親子で過ごしやすいスペース」など、利用環境の快適さに関する意見がありました。
短い時間でもアクセス可能な本と家具の配置、座席数の拡充や飲食可能なエリアの希望も複数あがっており、新設図書館には多様な利用シーンに対応できる空間づくりが求められていることが分かります。
また、「木材や植物を取り入れた空間で、安心できて本が読みやすい雰囲気」、「空調や採光面で快適に過ごせる工夫」など、室内での居心地を楽しめることを望む声もありました。

| No. | 意見 |
|---|---|
| 1 | • 無機質ではなく、有機的で暖色系の自然光が入る落ち着いた空間にしてほしい。 |
| 2 | • サイン（案内表示）がしっかりされ、初めて来た人でも分かりやすく入りやすい空間を希望する。 |
| 3 | • 天井が高く、オープンスペースと個人スペースが併設され、エリア分けが明確。ただし曖昧なゾーンも共存する図書館が理想。 |
| 4 | • 手に取った本をさっと読める椅子や荷物置き場があるとうれしい。 |
| 5 | • 本を持ち込んで靴を脱いで過ごせるキッズスペースのような場があればうれしい。 |
| 6 | • 本棚の近くに椅子があり、パラパラと本を読める場所。 |
| 7 | • 机があり、本を広げてじっくり読める空間。 |
| 8 | • 棚の本を眺めながら友人と本について気軽に話せる場があるとよい。 |
| 9 | • 利用者が多すぎて読書に集中できない図書館もあるため、自習スペースと読書スペースをきちんと分けてほしい。 |
| 10 | • 機能ごとにフロアが分かれていると分かりやすい。 |
| 11 | • 椅子の座り心地にもこだわってほしい。 |
| 12 | • 自習室の予約制や談話室・読書空間の整備によって、図書館がより好きになった経験がある。 |
| 13 | • 自習スペースと読書スペースを分けるなら、すみ分けを徹底してほしい。 |
| 14 | • 保健室のような逃げ場も併設できると良い。 |
| 15 | • 休日に何時間もうろうろ滞在したくなる場所。 |
| 16 | • リラックスできる空間。 |
| 17 | • カフェのような雰囲気で、自由に本を読める空間があるとうれしい（飲食も可能で、子どもとおやつを楽しみながら読めるとなおよい）。 |
| 18 | • 大人と子どものエリアを分けずに一緒にして、子どもを自由に過ごさせられるようにしてほしい。また、静かなエリアと多少おしゃべりしても良いエリアを明確に分け、読書以外（勉強や仕事）の利用者には専用スペースを用意してほしい。 |
| 19 | • 子どもと一日中ゆっくり過ごせる図書館になってほしい。ご飯を食べに外に出てまた戻って来られるような空間で、子どもに常に目を配らなくても安心できる場が望ましい。 |

| No. | 意見 |
|---|---|
| 20 | • 子どものエリアは賑やかで、外のエリアは静かに、と明確に分かれていて自分で好きな環境を選べる図書館がよい。また、海外の図書館（デンマーク・オーフスの Dokk1）のように、子どもの遊び場と本が隣り合う配置がされていると楽しい。 |
| 21 | • 木材や植物を取り入れた空間で、安心できて本が読みやすい雰囲気がよい。 |
| 22 | • エリア分けがされていて、自分の気分に応じて賑やかな場所と静かな場所を選べる図書館がよい。 |
| 23 | • 小さな子どもがのびのび過ごせる場所が欲しい。賑やかなエリアと静かなエリアがうまく共存できるようにしてほしい。 |
| 24 | • パソコン利用が認められる席があるとうれしい。テレワークや自習もできるよう、用途に応じたスペースが必要かもしれない。 |
| 25 | • 館内に軽食をとれるベンチなどのスペースがあるとうれしい。 |
| 26 | • 子連れでも気兼ねなく使えるバリアフリー対応のトイレを充実させてほしい。 |
| 27 | • 旧渋谷図書館では天井が一部ガラス張りで暑かったため、新館では空調や採光面で快適に過ごせる工夫をしてほしい。 |
| 28 | • 自習利用の学生を締め出すことのないよう、多様なニーズに応えるエリアを設け、それぞれに合った机や座席を用意してほしい。 |
| 29 | • 最寄りの図書館は座席が少ないため、新設館では十分な座席数を確保してほしい。子どもが自習や勉強で利用できる環境も整えてほしい。 |
| 30 | • ウィメンズプラザ（女性センター）図書館のような充実した机や学習スペースを参考にしてほしい。また、同館のような充実した選書体制も取り入れてほしい。 |
| 31 | • 予約席はあるが、ふらっと来て本をパラパラ読むための席が少ない。もっと気軽に立ち寄って利用できる席を用意してほしい。 |
| 32 | • 声を出せるスペースがあると子連れ利用者にはうれしい。 |
| 33 | • 「ゆいの森 あらかわ」のように子ども用スペースがあり、エリア分けがしっかりしている図書館がよい。 |
| 34 | • スマホをロッカーに預けて忙しさから解放され、研究や読書に没頭できる場所であってほしい。また、世界中のさまざまなことを知るきっかけや「ここに行ってみたい」と思える場所になってほしい。 |
| 35 | • 女性専用の閲覧室があると良い。 |

## 04 サービス

### 図書館は、人と本、人と人がつながるコミュニティの場であってほしい

04「サービス」では、図書館員やイベントへの期待に関する意見をまとめました。
学生や子育て世代からは「司書がおすすめ本を紹介してくれる機会が欲しい」「利用者同士・世代間の交流イベントを充実させてほしい」といった声があり、図書館を人と本、人と人がつながるコミュニティの場として捉える傾向が見られます。
また、「子どもと一緒に図書館で過ごしやすく」との要望や、「友達同士で集まって本を推薦し合える場」など、特に子どもや若者にとって居心地の良い図書館づくりを求める意見が印象的です。
さらに、「移民や多様な人々を支援する講座」「地域で長く暮らす人々の話が聞けるような仕組みが欲しい」など、図書館を地域コミュニティのハブと位置付けるサービス展開も望まれていました。

| No. | 意見 |
|---|---|
| 1 | • ボードゲームが利用できる図書館がよい。図書館で遊ぶことで偶然本が目に入り、本を手に取る機会になる。また障害者サービスの充実も欠かせない。 |
| 2 | • 地域住民も利用しやすく、中学生とも交流しやすい場。 |
| 3 | • 中学生による小さい子どもへの読み聞かせが行われている図書館だとうれしい。 |
| 4 | • 地元の図書館のように、七夕の時期には笹が飾られるなどイベントが充実して気軽に行ける場所。また、一人になりたい時や心がざわついた時の逃げ場としても使える図書館。 |
| 5 | • かわいいデザインの貸出カードがある図書館。 |
| 6 | • 地域で長く暮らす人々の話が聞けるような仕組みが欲しい。 |
| 7 | • 本を媒介にして子どもたちが話しやすくなれるような居場所であってほしい。 |
| 8 | • 子どもの読書体験や読み聞かせを大切にし、年齢を重ねても通いたくなる図書館を目指したい。各成長段階に寄り添い、コミュニティや人とのつながりを生む場所であってほしい。 |
| 9 | • 知らない人同士でも本を媒介に盛り上がれるイベントの充実など、コミュニケーションの場であってほしい。 |
| 10 | • 成長し新陳代謝し続ける図書館。市民のハブとなり、移民など多様な人々を支援する講座を充実させてほしい。インテリアよりソフト面に予算を割いてほしい。 |
| 11 | • 職員の自由度を尊重し、画一的になりすぎない運営を望む。個人の経験を生かし、情報や本を人から人へ伝える役割も重視したい。大学との連携も重要。 |
| 12 | • ふれあえる場所。 |
| 13 | • 定期的に訪れたくなる工夫があり、例えば「今月の過ごし方」のヒントがもらえる場所。 |
| 14 | • 自由さが大事。借りても借りなくても良い。スタッフの距離感ひとつで居心地が変わるため、スタッフとの距離が近い図書館にしてほしい。 |
| 15 | • 貸出や予約本の受け取りをセルフサービス化するなど利便性を高め、「ふらっと来て、ふらっと帰れる」図書館にしてほしい。 |
| 16 | • 新しい図書館を作る意味や狙いが区民にしっかり伝わるよう、明確なコンセプトや特色、ビジョンの発信を求めたい。 |
| 17 | • 本好きが訪れ、本も心地よく過ごせる図書館にしてほしい。公共図書館ならではの独自性を追求してほしい。 |

| No. | 意見 |
|---|---|
| 18 | • ウェブサイト上のマイページ機能（貸出履歴や予約・読みたい本の管理等）を充実させ、記録を印刷できるようにしてほしい。 |
| 19 | • 本に詳しい人（司書など）がきちんと関わっている図書館にしてほしい。本に熱意を持った人がいる図書館は信頼できるし、手に取りたい本に出会える確率が高まる。 |
| 20 | • 普段は一人で行く図書館だけれど、友達と一緒に行って遊んだり集まって話したり、本をおすすめし合える場があればうれしい。 |
| 21 | • 子どもに本を読んでほしい親の気持ちをサポートできるよう、司書がおすすめ本を提示してくれたり、司書とコミュニケーションが取れる機会があるとうれしい。 |
| 22 | • レファレンス（調べもの相談）の対応スキルに差があると感じるので、サービスの質を向上させてほしい。 |
| 23 | • 可能であれば 365 日開館してほしい。 |
| 24 | • 本の返却をしやすくする工夫（返却ポストの設置や返却時間の延長など）があるとありがたい。 |
| 25 | • 図書館自体が情報発信力を持つ存在であってほしい。 |

## 考察

以上の調査結果を踏まえ、新設図書館の計画においては、配架、蔵書、空間・設備、サービスの各面で利用者の期待を反映させることが重要です。

配架方法については、表紙が目に入る面陳と背表紙での配架の両方をバランスに配慮して積極的に取り入れつつ、NDC 分類ではなくテーマによって分けられた独自の分類方法も検討するなど、利用者が思わず手に取りたくなるような工夫を凝らし、思いがけない本との出会いを作ることが求められます。

蔵書面では、参加者が求めたように、例えば詩集から写真集、児童書から学術書まで幅広く揃えるとともに、最新の本だけでなく、個人では入手困難な貴重な本も収集する方針が望ましいと考えられます。加えて、大人も楽しめる絵本を置いてほしいという意見もあることから、絵本が子どもだけでなく世代を超えて親しまれるコンテンツであり、大人の鑑賞や読み応えに耐える絵本を充実させることの重要性も伺えます。これにより、日常の憩いから深い学び、さらには希少な資料との出会いまで、多様な本との偶然の出会いを提供できます。

空間・設備においては、静かに読書に没頭できるエリアと、人が集いイベントや対話を楽しめるエリア、飲食可能なスペースの配置など、利用者自身で様々な目的にあわせてエリアを自由に使い分けでき、エリア間の行き来を簡単にできるような、柔軟性を持った空間づくりが求められています。

サービスでは、上述のようなイベント企画や交流プログラムの実施、利用者参加型の図書館運営、司書によるおすすめ本の紹介など、図書館をコミュニティの場として期待する声がありました。

寄せられた意見や要望は多岐にわたりますが、その根底には共通して、図書館が「日常の中で心地よく過ごせる場」「新しい出会いや深い学びを得られる場」「個人では手の届かない本や体験に出会える場」であってほしいという期待が見られました。これらの意見は、今後も検討する本の配架とともに閲覧席の配置、運営面などにおいて、活かすことのできる貴重な示唆を含んでいます。

## （2）コミュニケーションワーク/広尾小学校・常磐松小学校

### 実施概要

小学生にどんなふうにすれば、図書館や本が魅力的になるのか探ることを目的に、学習環境デザイナーによるコミュニケーション型のワークショップを実施しました。
調査対象は、新設される図書館の近隣にある、広尾小学校と常磐松小学校の児童とし、2 校の総合的な学習の時間を活用し実施しました。
ワークの内容は、参加者同士の対話を通して“思いがけない本との出会い”を体験する、コミュニケーションを含むプログラムで、クラスの人数と学校図書館などの環境に応じてそれぞれの学校で異なる手法を取り入れました。
ひとつは「当日の服の色」から本を探して印象に残った一文を共有する方法、もうひとつは事前に選んだ本の一文のタイトルを当てるゲーム形式です。いずれの取組でも、どの本が選ばれ、どの一文が抜き出されたかを共有し合うことで、児童たちの関心や本との向き合い方を把握しました。

### 広尾小学校

| | |
|---|---|
| 実施日時 | 2025 年 10 月 16 日（木）10：40～11：25 |
| 対象者 | 広尾小学校 6 年生 36 人 |
| 内容 | 当日着用している服の色と同じ色の表紙の本を図書室で探し、読んでみる |

### 常磐松小学校

| | |
|---|---|
| 実施日時 | 2025 年 10 月 16 日（木）13：30～14：45 |
| 対象者 | 常磐松小学校 4 年生 18 人 |
| 内容 | 事前に選んだ本の中の、気になる・伝えたい一文を紹介し合う |

**講師**

学習環境デザイナー／VIVISTOP NITOBE コミュニティクリエイティブディレクター／
東京造形大学特任准教授

**山内佑輔（やまうち・ゆうすけ）**

大学職員、公立小学校の図工専科教員を経て、2020 年 4 月に新渡戸文化学園へ着任。子どもたちがやりたいと思う気持ちのままにつくったり試したりできる、偶然性に開かれた空間「VIVISTOP」を運営する VIVITA と連携し、新渡戸文化学園内に VIVISTOP NITOBE を開設し、その運営を担当。2021 年「VIVISTOP NITOBE FURNITURE DESIGN PROJECT」がキッズデザイン賞最優秀賞内閣総理大臣賞受賞。2025 年から東京造形大学特任准教授に就任。「造形とコミュニケーション」を軸に、企業・行政と協働しながら、多世代が創造的に関われる場の設計・運営を行い、対話から新しい価値を共に生み出す。その他、キッズワークショップアワード優秀賞、東京新聞教育賞を受賞。2025 年 8 月渋谷区図工美術教育研究会研修講師。

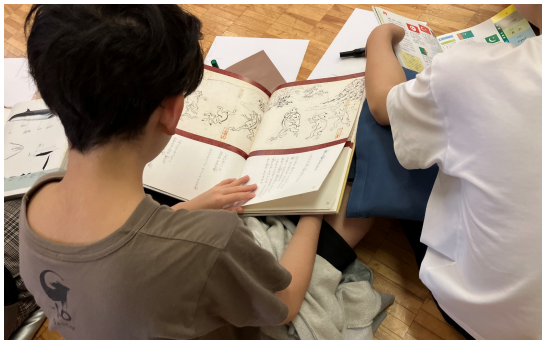
## 各校におけるコミュニケーションワークの流れ

### 広尾小学校（色からはじまる本との出会い）

広尾小学校では、机の上に並べられた、色とりどりの色紙の色を手掛かりに本を選び、その本を読んで、気になった一文を抜き出すコミュニケーションワークを実施しました。
参加した児童からは、「読もうと考えていなかった本でも、読んだら案外おもしろかった」「本の好みの幅が広がった」といった感想が寄せられ、短時間の読書でも新たな関心を引き出すきっかけとなりました。選ばれた言葉にも印象的なものが多くあり、児童がどのような言葉に興味を持つかを伺うことができました。

- 並べられた色紙の中から、
  今日自分が着ている服に使われている色を探し、
  １枚選ぶ

- 学校図書館に移動する
- 色紙と照らし合わせながら、
  その色が表紙等に使われている本を
  １冊選ぶ



- それぞれが選んだ本を一斉にパラパラとめくり、
  「ストップ」と声がかかった時に開いているページを
  ３分間読む
- 気になった言葉やおもしろいと思った文章などを、紙に書き出す

- 全員分の言葉を見せ合い、その中から気になるものを選ぶ
- 選ばれた人は、言葉と本を紹介して共有する（これを何度か繰り返す）

## 常磐松小学校（気になる・伝えたい一文を抜き出す）

常磐松小学校では、児童たちに前もって好きな本と、その中の一文を選んでもらい、当日はその一文を使ったコミュニケーションワークを実施しました。その一文はどの本に書かれているのかを当てるというゲーム要素も取り入れながら、どうしてその一文を選んだのかを共有しました。
予想外の本からの引用に驚く場面も多く見られ、楽しみながら本への関心を深める様子が伺えました。互いに好きな本を紹介しあうことで、新たな読書意欲を喚起する機会となりました。

- 各自が選んだ一文は、あらかじめカードとして準備されている
- 図書室内には、それぞれが選んだ本が色々なところにちりばめられている
- ５グループに分かれ、カードを均等に配る

- カードに書かれている一文は、どの本のものかをグループで考える
- 話し合いながら、一文と本を組み合わせ、決まったら本の場所にカードを置く
  ※自分の本は正解が分かっていても、秘密にしておく

- 本と一文の組み合わせがあっているか、その一文を選んだ人に聞く
- 組み合わせがあっていた場合は、その本と一文を選んだ理由を発表する。違っていた場合は、正しい本のところにカードを置きなおし、同様に発表する（これを何度か繰り返し、組み合わせが合致していく）

- 最後にグループ内で、選んだ本とその一文について紹介しあう

## 結果概要と考察

### 結果概要

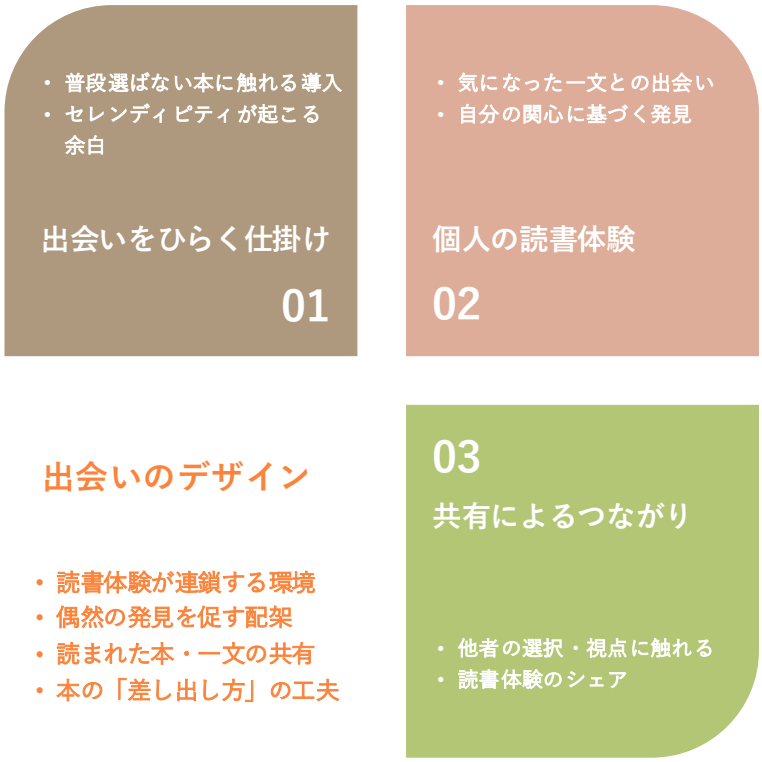
ワークショップを通して、児童たちは自分の興味から選んだ言葉によって考えるだけでなく、他の児童が選んだ一文や紹介してくれた本をきっかけに新たな視点を得たり、新しい本とのつながりを見つけたりしていました。つまり、読書は一人で完結するだけではなく、他者を介して広がっていく多層的な体験であることも分かります。

### 出会いをひらく仕掛け – 思いがけない偶然を引き起こす

広尾小学校では、色という身近な要素を起点としたことで、児童たちは普段なら手に取らないような本にも出会う機会が生まれています。実際に参加児童からは「読もうと考えていなかった本でも、読んだら案外おもしろかった」といった声が聞かれ、わずかな時間の読書体験でも、本との出会い方に少し工夫を凝らすだけで興味の幅が広がることが伺えました。

一方、常磐松小学校では、引用された一節が意外な本から取られていたことで驚きの声が上がる場面も多く、ゲームを楽しみながら本への関心を深める様子が見られました。

また、こうして紹介された本は、他の児童にとって新しいジャンルへの入口となり、思いがけない本との出会いが生まれる「セレンディピティが起こる余白」にもなります。お気に入りの本をお互いに紹介し合うこのワークを通じて、子どもたちは楽しみながら新たな本と出会い、読む意欲を高める契機を得ることができました。



### 個人の読書体験―気になる一文から生まれる気づき

児童たちは「気になった一文」や「好きな本」を選ぶ過程で、自分自身の興味や感覚に基づいて本と向き合っていました。色紙やテーマといったヒントを頼りに本を手に取り、短い時間でも言葉や場面に触れてみることで、「本には一つひとつおもしろいことや大切な言葉があると思った」「偶然とった本でも心に残る言葉があることを知った」といった内的な気づきが生まれています。こうした経験は、読書を学校の課題ではなく自分の関心から生まれる主体的な行為として捉え直す契機になりました。児童にとって、本の中から自分が「いい」と思った言葉を見つけ出すプロセス自体が、新鮮な発見につながり、自発的に読み進める動機付けとなりました。

### 共有によるつながり－本と出会い結び目になる体験のシェア

両校のワークショップでは、自分の「好きな本」や「気になった一文」を選び、その本と選んだ理由をグループ内で紹介し合う時間が設けられました。こうした体験の共有は、本と本、人と本とをつなぐ"結び目"として機能しています。それぞれの児童が選んだ本と言葉が別の児童にとって思いもよらない興味を喚起し、「自分も読んでみたい！」という読書の動機づけにつながる場面が多く見られました。実際、読書体験は個人の内側で完結するものではなく、他者を介して語られ共有されることで新たな意味や価値を帯びていくことが分かります。他の児童から本の魅力を聞くことで、自分では手に取らなかった本に興味を持つなど、読書体験が人と人とのつながりの中で広がっていく様子が確認できました。

### 考察

今回の取組から得られた気づきとして、図書館は単に静かに本を読む場所という従来のイメージを超え、展示や見せ方の工夫によって利用者の興味を引き出す場となりうることが示唆されました。特に、ワークショップ結果の考察として、図書館内で利用者が思いがけない本と出会えるようにするための以下の４つの可能性が考えられます。

- 読書体験が連鎖する環境: テーマでつながる本を近接配架し、思いがけない出会いと興味関心の連鎖を促す。
- 偶然の発見を促す配架: 普段は手に取らないジャンルへの導入となる本を意図的に配置し、未知の本との接点を生む。
- 読まれた本・一文の共有: 読まれた本の一文や挿絵を館内で可視化・共有し、読書体験が他者へと連鎖する環境をつくる。
- 本の「差し出し方」の工夫: 偶然の発見を促す本の「差し出し方」の工夫により、セレンディピティが起こる余白をつくる。

これらは、ワークショップで子どもたちが体験した「思いがけない出会い」を日常の図書館利用でも再現しようとするアプローチです。たとえば、児童の興味を惹くような印象的な一文を掲示してみせることで、思わず本に手を伸ばす

きっかけを作ることができます。また、今回のワークショップのように自分では選ばないような本と出会える棚づくりを模索していくことも有効だと考えられます。具体的には、NDC 分類が異なっていてもテーマによってつながりがある本同士を混ぜて配架するなど、偶然の発見が生まれる配架方法を検討することで、利用者の視線が未知の本へと広がる可能性が高まるでしょう。実際、常磐松小学校で児童たちが選んだ本には物語性のある作品や映画化された作品など子どもにとって親しみやすいテーマの本が多く含まれていましたが、そうした本は他の児童にとって新しいジャンルへの入口となり、読書の広がりを生むきっかけになることが想定されます。

このことから、新設図書館の選書・配架においては、児童が馴染みやすい「入口となる本」と、そこから関連性を持つ別分野の本を組み合わせて配置することが有効だと整理できます。また、子どもたちに人気の物語や映像化作品の隣に、その作品と関連する本を並べてみるといった工夫により、興味関心の連鎖が生まれやすくなります。そうすることで、子どもたちにとって図書館は「次はどんな本に出会えるだろう？」と行ってみたくなる場所となり、また「この本も読んでみたい！」と読書意欲をかき立てる場にもなり得ます。新設図書館でも、遊び心ある展示やジャンル横断的な棚構成によって、子どもが思わず立ち寄りたくなるような魅力的な場づくりを目指すことが重要です。

# 結果一覧

## 広尾小学校（色からはじまる本との出会い）

| No. | 気になった言葉 | 本のタイトル | ワークの感想 |
|---|---|---|---|
| 1 | なんて、親切な看板だ。 | 『都会のトム＆ソーヤ』 | • 読もうと考えていなかった本でも、読んだら案外おもしろかった |
| 2 | 青い星の秘密 | 『宇宙の生命　青い星の秘密』 | • この 45 分でいつもは、読まない本を選んだことがないような本を選んだけど、あまり読んだことがないような本だった |
| 3 | メダカ | 『メダカ』 | • いつもは読もうとしない本が読めた |
| 4 | 自分自身が夢を持たなくて、どうして人に夢を与えることができるでしょう | 『そのとき何歳？』 | • 偶然とった本でも心に残る言葉があることを知った |
| 5 | つくりかた | 『うごくおもちゃをつくろう　うかぶ！はしる！おもちゃ』 | • 本にはいろんな選び方があるのだと知れた。いろんな言葉が本には書かれていた。 |
| 6 | ひとつの船で7000台くらいの車をはこぶよ！ | 『小麦はどこから来たの？』 | • 偶然選んだ本でもしらなかった |
| 7 | どうぶつ | 『こんなしっぽでなにするの？』 | • おもしろかった。絶対手に取らない本を読めた。 |
| 8 | 教会の扉よ、こわれるな。わたしは、ほんとの花嫁じゃない | 『グリムの昔話』 | • 楽しかった。（花嫁どうした／マレーンひめどこに居るねん／王子気づけよ／たのしかった） |
| 9 | みしのたくかにと | 『みしのたくかにと』 | • いろんな本の選び方があると知った。 |
| 10 | 生命誕生 | 『カメ』 | • 見たことも読んだことのない本ばっかりでおどろきました。「カメ」という本を読んで、カメさんのことを沢山知りました。 |
| 11 | ウーマン・リブ大会 | 『今日は何の日？』 | • 「今日は何の日？」という本をたまたま見つけて読んでみると意外とおもしろかった。365 日すべての日が何らかの日と知ってすごいと思った。 |
| 12 | 三日天下 | 『戦国武将がわかる絵事典』 | • あまり歴史の本を読まないので、面白いかつまらないかわからなかったが、今日見たことで少し興味をもてた気がした。たまには読んでみようと思いました。 |
| 13 | じょうずになるまで約 3 年！ | 『焼きもの』 | • 焼き物を作るには、いっぱい時間をかけて練習しなくてはいけないことや、完成するまでも大変なことが分かった。 |
| 14 | ヤングケアラーが… | 『with you』 | • 初めて聞いた言葉だった。 |
| 15 | ドリームドーム | 『ふしぎ駄菓子屋　銭天堂』 | • 夢は無限大 |
| 16 | カメムシは語った… | 『エカシの森と子馬のポンコ』 | • 物にも心はある！！！！！ |
| 17 | マークはなかなかトップになれなかった | 『5 分後に意外な結末』 | • ブライアンは営業成績 TOP・マークもがんばってる |
| 18 | なにをこわがっているんだい？ | 『みどりのしっぽのねずみ』 | • 偶然好きな本があってよかった。ねずみがかぶりものをかぶっているのがかわいい。 |
| 19 | しかもかもしかもしかだがしかしあしかはたしかしかではない | 『きっときっとかってきて』 | • 「本への出会い方がいっぱいあるな～」って思った。 |
| 20 | 宇宙への秘密の鍵 | 『宇宙への秘密の鍵』 | • いつもと違う本の選び方だったからへんな本を選ん |

| No. | 気になった言葉 | 本のタイトル | ワークの感想 |
|---|---|---|---|
| | | | だけどおもしろかった。 |
| 21 | クロコダイルのなかま | 不明 | • 自分の中で成長した。本はいがいとおもしろかった |
| 22 | シロナガスクジラ | 『世界のクジラ・イルカ百科図鑑』 | • 本には一つひとつおもしろいことや大切な言葉があると思った。 |
| 23 | ひきょうだぞ！はなせ！はなせ！ | 不明 | • 本はいろいろな本があることが分かって楽しかった。😀 |
| 24 | おウマさん | 『健康ゲーム』 | • 楽しかった。 |
| 25 | 人類最初の文明は、どれも大きな川のそばではじまったよ。 | 不明 | • 読んでみると意外とおもしろい本があった。 |
| 26 | あの子の髑髏（しゃれこうべ）なら、いい手まりになりそうだものね。 | 『鬼遊び髑髏の手まり歌』 | • ずがいこつのこと髑髏（しゃれこうべ）と言うのを始めてしった！💀 |
| 27 | 黒魔女さん | 『黒魔女さんのバレンタイン』 | • 読んでみたらちょっとおもしろかった。 |
| 28 | そのころの自分をうらやんでいます。 | 『かくされた意味に気がづけるか？3 分間ミステリー』 | • 逆から読んでみても意外と面白かったです。普段はやらない読み方だった。 |
| 29 | 前にもスネイブがハリーを殺そうとしているって思ったことがあったけど、あのとき、スネイプはハリーの命を救おうとしてたのよ。憶えてる？ | 『ハリー・ポッターと炎のゴブレット下』 | • セリフだけでも、意味が伝わると感じた。 |
| 30 | とうとう、お母さんはビエノの涙をつぼにためることにしました。そしてつぼがいっぱいになると、涙で粉をねって、おおきな丸いパンをつくりました。 | 『め牛のブーコラ』 | • こういう本はあまり手に取らないので、読んでみてみよっと。共感できないものもあったけど、ツッコミどころのある内容だった。 |
| 31 | blood・y | 『フェイバリット英和辞典』 | • 英語辞典難しかった。ぜったい手に取らない本だった。 |
| 32 | なやまなくても、そのうち見つかるわよ。自分の一番やりたいこと。 | 『四つ子ぐらし⑩　四つ子記者と七ふしぎのナゾ』 | • いつもだったら読み飛ばしているような言葉も、しっかり深く読むことができたので、本がもっとすきになりました。これからも、いい言葉を探しながら本を読んでみたいです。ありがとうございました！ |
| 33 | ずっと友達 | 『四つ子ぐらし⑥　夏のキャンプは恋の予感』 | • いつもなら読み飛ばしているような言葉をしっかりと読むことができた。楽しかった！！ |
| 34 | 武器は筆。文字を書き換え、悪から友を守れ！！ | 『いみちぇん！！　ふたたび、ひみつの二人組』 | • はっけん。「私は、やっぱ好きな本しか選ぶんだな～」って思った！！　楽しかった？！ |
| 35 | わたし、いつかレシピブックの全部のページを読めるようになりたいわ。だって、ページの分だけ誰かの役に立ったことになるんですもの。 | 『二代目魔女のハーブティー』 | • 普段読まない本（興味がない本）を読んで、本の好みの幅が広がった。服の色で読む本を決めるという方法が新しくておもしろかった！！ |
| 36 | 海 | 『わたしと小鳥とすずと』 | • 本が難しくてなれた😀 |

## 常磐松小学校（気になる・伝えたい一文を抜き出す）

| No. | 好きな一文 | 本のタイトル |
|---|---|---|
| 1 | (名犬ラッシー)そしてついにラッシーはなつかしい村に帰ってきた。 | 『12 歳までに読みたい名作 100』 |
| 2 | そして 9 枚の扉は、開かれたのであった。 | 『5 秒後に意外な結末　アポロンの黄色い太陽』 |
| 3 | 「これがあいうえおの木だよ」とありは言った | 『あいうえおの木』 |
| 4 | 何事においても研究熱心なハカセは、次なる大漂流に備えて、今日もトイレの便器に座り込んで「アドベンチャー入門」の第一ページ目から読み直しているのである。 | 『あやうしズッコケ探検隊』 |
| 5 | とうめいな月の光が、二ひきをやさしくなでていった。 | 『あらしのよるに』 |
| 6 | こんなとしとった野良猫に優しくしてくれた人なんか、今までいなかったからです。 | 『エルマーの冒険』 |
| 7 | おしまい | 『おさるのジョージ図書館に行く』 |
| 8 | 「お・・・も・・・い・・・。すこし・・・く・・・さ・・・い・・・」 | 『おしりたんていみはらしそうのかいじけん』 |
| 9 | わかったわかった。 | 『かいけつゾロリのちていたんけん』 |
| 10 | 僕は小さなティーポット | 『グレッグのダメ日記』 |
| 11 | 百万ドルはあるぞ！ | 『ひみつの島の宝物（ぼくらのミステリータウン１０）』 |
| 12 | 木を切ってあげるのも自然のやさしさなのさ | 『ふどうさんと不思議なお手紙』 |
| 13 | 「そうか。よう―し。ぐすうよう、まっちょうりょう！」 | 『ふなひき大良』 |
| 14 | 「科学で解けない謎はない。」 | 『科学探偵　謎野　真実シリーズ１　「科学探偵 vs 学校の七不思議」』 |
| 15 | 己のゴールを何よりも喜びとし、その瞬間だけに生きろ　それがストライカーだろ？ | 『小説ブルーロック 1』 |
| 16 | 走れ！水族館に | 『人狼サバイバル』 |
| 17 | 一緒にいるのが、すっかり楽しくなってきた。 | 『虹色の魚』 |
| 18 | 自分で作ればいいじゃない。 | 『本好きの下剋上　兵士の娘１』 |
| 19 | 大丈夫だから、大人になって。 | 『かがみの孤城』 |

※当日は担任の先生も参加したため 19 名分を掲載

- 好きな本や印象に残った一文を選んだ理由としては、「何度も読んでいるから」「物語が変わるポイントだったから」「本の最初の言葉だったから」など、作品への親しみや物語の展開に注目した意見が多く見られた。
- また、「何度も出てくるセリフだから重要だと思った」「一番面白い本で、一番面白いセリフだから」など、印象的な言葉を自分なりの視点で捉える様子が伺えた。児童一人ひとりが、それぞれの関心や感性にもとづいて言葉を選んでおり、読書への興味の深まりが感じられた。